Bulletin of the International Institute for Buddhist Studies 5 (2022): 99–133

Vinayasūtravr̥ttyabhidhānasvavyākhyāna の梵文写本に引用されるテキスト（1）

生野 昌範

仏教の男性出家者（比丘）の遵守すべき「二百五十戒」に関する箇所は、根本説一切有部律においてサンスクリット語テキストが部分的に現存するのみである。一方、根本説一切有部律の綱要書である Guṇaprabha 著 *Vinayasūtra* に対する注釈書の一つである Guṇaprabha 著 *Vinayasūtravr̥ttyabhidhānasvavyākhyāna* に根本説一切有部律からの（直接の）引用があることが知られている[1]うえに、*Vinayasūtravr̥ttyabhidhānasvavyākhyāna* のサンスクリット語写本が不完全ながら現存している[2]。引用であるので当然のことながら根本説一切有部律のうちの微々たる量にしか相当しないが、数多くの引用があるので収集して研究するだけの価値がある。

そこで、本稿では、*Vinayasūtravr̥ttyabhidhānasvavyākhyāna* のサンスクリット語写本資料を用いて「二百五十戒」に関する箇所[3]における引用文の収集と分析を行なう[4]。

収集する際の方針として、ゲッティンゲン図書館に保管されていてプロト・ベンガル書体[5]で記されている資料[6]を主たる資料として本文で扱い、大正大学によって影印版が出版されているチベット文字のウメ字体で記されている資料を副次的な資料として脚注に挙げる[7]。そして、収集した引用文は、各条項内における通し番号を付す。また、*Vinayasūtravr̥ttyabhidhānasvavyākhyāna* における引用文が根本説一切有部律の現在利用することができるテキストと部分的にのみ一致

---

[1] 生野 2021b, 465, 注 2 参照。

[2] 現在利用しうるサンスクリット語写本は二種類あるが、そのどちらの写本も未校訂箇所に関するテキスト校訂はほとんど進捗が見られない状況である。

[3] サンスクリット語テキストを収集する範囲は、パーラージカー第一条からプラーヤシュチッティカー第三十条までとプラーヤシュチッティカー第四十一条を予定している。

[4] 引用文の収集は、grantha-、あるいは āgama-として示されているものに限定する。また、*Vinayasūtravr̥ttyabhidhānasvavyākhyāna* において当該の引用文に直接関与すると見なされえない箇所は、取り上げない。同様に、被注釈文献である *Vinayasūtra* の本文も、当該の引用文の理解に直接資する場合でなければ、内容を取り扱わない。サンスクリット語テキストを校訂する際の方針に関しては、Shōno 2019 参照。

[5] この書体の名称に関して統一的な見解は得られていない：Bandurski 1994, 19–21 参照。

[6] プロト・ベンガル書体による *Vinayasūtravr̥ttyabhidhānasvavyākhyāna* の写本は、ゲッティンゲン図書館において Xc 14/61(a)と Xc 14/61(b)、および Xc 14/64 に分類されているが、これらの三つが同一の写本に属するのか異なる写本に属するのかということは現時点では判断しかねる［生野 2021a, 71 注 36］。したがって、Xc 14/64 を MS 1.1 とし、Xc 14/61(b) を MS 1.2、Xc 14/61(a) を MS 1.3 として提示する。

[7] 当該テキストがプロト・ベンガル書体による資料には現存せずウメ字体による資料に現存する場合に限って、ウメ字体による資料を本文で扱う。

している場合は、その一致する箇所に下線を施して明示する。

なお、*Vinayasūtra* の現在の校訂本におけるスートラの分け方に問題があることはよく知られていて、本稿で扱う 2.96, 110, 128 も複数のスートラが一つとして校訂されている箇所である。すべてのスートラを適切に区分しなおす必要はあるが、本研究はすべてのスートラを取り扱うことは意図していないので本研究の範囲を超えている。したがって、*Vinayasūtra* の新しい校訂本が出版されるまでは、大正大学による VinSū におけるスートラ番号を使用する。

1. パーラージカー第一条

Vinayasūtra においてパーラージカー第一条は Pratyākhyānavidhiḥ、Vibhaṅgaḥ、Kṣudrakagatam、Pr̥cchā、Vinītakāni というセクションからなるが、これらのうち *Vinayasūtravr̥ttyabhidhānasvavyākhyāna* において Pr̥cchā に 5 箇所と Vinītakāni に 7 箇所の引用が存在する。

1.1. Pr̥cchā

(1) *Ad* VinSū sūtra 2.35: maṇer asya praviṣṭatā tadantaḥ.
VinSūVr̥Sv MS 1.1:
grantho ‹’›tra. dantehi[8] maṇim atikrāmayati, bilāto[9] maṇim[a)] atikrāmayati, carmmato maṇim atikrāmayatīti. (Xc 14/64 Va5.7, cf. Nakagawa 1991, 259.4–5)[10]
[a)] MS gaṇḍikām.
これに関して、典籍がある：「［口の場合］諸々の歯より亀頭[11]を越え行かせる。［大便道の場合、肛門の］穴より亀頭を越え行かせる。［小便道の場合、膣口の］皮より亀頭を越え行かせる」と。[12]

---

[8] この語に関しては、VinSūVr̥Sv において当該箇所の直後に以下のような説明がある。
VinSūVr̥Sv MS 1.1:
tatra dantehīty etat* dantebhya ity asyāpabhraṃśa (Vb5.1) iti yujyate ||. (MS 1.1 [Va5.7–b5.1]. Cf. Nakagawa 1991, 259.5–6, Yonezawa 2022, 69.6–7; VinSūVr̥Sv (Tib.) [D źu 61a5, P ’u 72a2])
「そこにおいて、dantehi というこれは、dantebhyas というこれの逸脱形であるというのが適切である。」

[9] BHSG §§ 8.50–51 参照。ただし、VinSūVr̥Sv（と *Uttaragrantha* 1）の bu gu’i sbubs las を参考にすると、bilagaṇḍikā- の abl.形が想定されうる；Nakagawa 1991, 259.4 参照。

[10] VinSūVr̥Sv MS 2:
grantho ‹’›tra. dantehi maṇim atikrāmayati |, bilāt +maṇim[a)] atikrāmayati, carmato maṇim atikrāmayatīti |. (6v6, cf. Yonezawa 2022, 69.5–6) [a)] MS magaṇḍikām.
VinSūVr̥Sv (Tib.):
’dir gźuṅ ni | so dag las nor bu ’da’ bar byed pa daṅ | bu gu’i sbubs las nor bu ’da’ bar byed pa daṅ | pags pa las nor bu ’da’ bar byed pa źes gsuṅs pa yin no || (D źu 61a4–5, P ’u 72a1–2)

[11] PW s.v. *maṇi*, 3 を参照。maṇi に対応するチベット語訳は、VinSūVr̥Sv（と *Uttaragrantha* 1）では nor bu であるが、後に見るように *Uttaragrantha* 2 では dkre である。

[12] 内容に関して、中川 1987, 400–399 も参照。

ここに引用される典籍は、根本説一切有部律の *Uttaragrantha* のうちの *Upāliparipṛcchā* における次の箇所であると考えられる。なお、*Uttaragrantha* のチベット訳はチベット大蔵経内に二つ存在するが、*Uttaragrantha* 1 も *Uttaragrantha* 2 も *Upāliparipṛcchā* におけるパーラージカー第一条を保持しているので、*Uttaragrantha* 1 と 2 の両方を挙げる。

Uttaragrantha 1:
saṅs rgyas bcom ldan ’das la tshe daṅ ldan pa ñe ba ’khor gyis źus pa | btsun pa bcom ldan ’das kyis bcug ma thag tu[a)] mthar ’gyur ro[b)] źes gsuṅs pa gaṅ lags pa |[c)] ji tsam gyis na kha’i lam du bcug pa źes bgyi | ñe ba[d)] ’khor so las nor bu ’da’ bar byed pa tsam gyis so || ji tsam gyis na bśaṅ ba’i lam du bcug pa źes bgyi | ji tsam du bu ga’i sbubs[e)] las nor bu ’da’ bar byed pa tsam gyis so || ji tsam gyis na gci ba’i lam du bcug pa źes bgyi | pags[f)] pa’i rim pa las nor bu ’da’ bar byed pa tsam gyis so || (bKa’ ’gyur, ’Dul ba; D 7: D na 2a5–b1, P 1036: pe 2a5–7)
[a)] P du. [b)] P ro ||. [c)] P omits |. [d)] P bar. [e)] P sbabs. [f)] P lpags.
世尊に尊者ウパーリが尋ねた：「御身よ、世尊は『入れるやいなや極［罪］になる』とおっしゃられました。口道に入れるとはどれほどによってでしょうか？」「ウパーリよ、歯より宝玉（亀頭）を越え行かせるほどによってである。」「大便道に入れるとはどれほどによってでしょうか？」「［肛門の］穴である管［の端］より宝玉（亀頭）を越え行かせるほどによってである」。「小便道に入れるとはどれほどによってでしょうか？」「［膣口の］一連の皮より宝玉（亀頭）を越え行かせるほどによってである」。[13]

Uttaragrantha 2, *Upāliparipṛcchā*:
saṅs rgyas bcom ldan ’das la tshe daṅ ldan pa u pā lis źus pa | btsun pa bcom ldan ’das kyis bcug ma thag tu mthar ’gyur ro źes gsuṅs na | ji tsam gyis na khar bcug pa źes bgyi | u pā li so las dkre[a)] ’das na’o || ji tsam gyis na bśaṅ ba’i lam du bcug pa źes bgyi | rkub khar dkre ’das na’o || ji tsam gyis na gci ba’i lam du bcug pa źes bgyi | kha śun las dkre ’das na’o || (bKa’ ’gyur, ’Dul ba; D 7: D na 92b5–7, P 1037: pe 87a7–b1) [a)] P dgre.
世尊に尊者ウパーリが尋ねた：「御身よ、世尊は『入れるやいなや極［罪］になる』とおっしゃられましたが、口に入れるとはどれほどによってでしょうか？」「ウパーリよ、歯より陰茎の先（亀頭）を越え行かせるならば、である」。「大便道に入れるとはどれほどによってでしょうか？」「肛門より陰茎の先を越え行かせるならば、である」。「小便道に入れるとはどれほどによっ

[13] *Vinayavibhaṅga* において淫法が小便道、大便道、口道の三所に関して行われるということがすでに規定されている［D ca 33b7–34a1, P che 29b4–5; 唐・義浄訳『根本説一切有部毘奈耶』巻第一，大正蔵 23, no. 1442, 630c21–23］。なお、*Vinayavibhaṅga* のこの箇所は、Śākyaprabha 作 *Āryamūlasarvāstivādiśrāmaṇerakārikāvṛttiprabhāvatī* に引用が見られる［bsTan ’gyur, ’Dul ba/’Dul ba’i ’grel pa; D 4125 śu 122b2–3, P 5627: hu 136a7–8］。

てでしょうか？」「[膣]口の皮より陰茎の先を越え行かせるならば、である」。

根本説一切有部律の *Uttaragrantha* のこの箇所は、引用文と近しい文言ではあるが、引用文のように一部分にまとまってはいない[14]。

また、上記の箇所に対応する文は『十誦律』巻第五十二[15]と『薩婆多部毘尼摩得勒伽』巻第一と巻第八にもある[16]が、三つの場所に言及するのは『薩婆多部毘尼摩得勒伽』巻第八のみである。そして、『薩婆多部毘尼摩得勒伽』巻第八においても、引用文と比較すると、「穀道（大便道）」の場合にも「皮」を越えるという記述が引用文と異なる。

---

[14] *Vinītaka* にも三つの場所に関する言及が以下のようにある。
Uttaragrantha 2, *Vinītaka*:
lam gsum la bśaṅ ba'i lam daṅ | gci ba'i lam daṅ | kha'i lam mo || dge sloṅ gis gci ba'i lam du dkris kha śun 'das na phas pham par 'gyur ro || dge sloṅ gis bśaṅ ba'i lam du dkris rkub kha[a)] 'das na phas pham par 'gyur ro || dge sloṅ gis kha'i lam du dkris so 'das na phas pham par 'gyur ro || || (D na 290a3–5, P pe 272a7–8) [a)] P ka.
「三道に関して、小便道と大便道と口道である。比丘が大便道において、包まれたもの（亀頭？）でもって穴の皮（？）を越え行かせるならば、パーラージカーである。比丘が小便道に関して、包まれたもの（亀頭？）でもって外陰部（膣口）を越え行かせるならば、パーラージカーである。比丘が口道に関して、包まれたもの（亀頭？）でもって歯を越え行かせるならば、パーラージカーである」。
Vinītaka のこの箇所は三つの場所に関してまとまって述べられている点では引用文と近しいが、「～ならば、パーラージカーである」と記述されているので文体の点では異なる。
なお、*Āryamūlasarvāstivādiśrāmaṇerakārikāvṛttiprabhāvatī* における以下の箇所は、*Vinītaka* のこの箇所からの引用と考えられるが、細部において検討を要する。
'Dul byed las dge sloṅ gis bśaṅ ba'i lam du spu bu'i kha la nor bu 'da' bar byed na pham par 'gyur ro || kha'i lam du so las nor bu 'da' bar byed na pham par 'gyur ro || gci ba'i lam du pags pa las nor bu 'da' bar byed na pham par 'gyur ro źes 'byuṅ ba yin te | (D śu 122a7–b1, P hu 136a5–6)
「*'Dul byed*（*Vinītaka*）によると、『比丘が大便道において毛のある穴（？）より（las）宝玉（亀頭）を越え行かせるならば、パーラージカーになる。口道において歯より宝玉（亀頭）を越え行かせるならば、パーラージカーになる。小便道において皮より宝玉（亀頭）を越え行かせるならば、パーラージカーになる』と言われていて……」

[15] 後秦・弗若多羅訳『十誦律』巻第五十二
又問。口中行婬、齊何處、得波羅夷。答。節過齒、得波羅夷。（大正蔵 23, 1435: 379a14–15）

[16] 宋・僧伽跋摩訳『薩婆多部毘尼摩得勒伽』巻第一
又問。口中行婬、齊何處、得波羅夷。答。節過齒、得波羅夷。（大正蔵 23, 1441: 569c14–15）
『薩婆多部毘尼摩得勒伽』巻第八
問。云何口中作婬、波羅夷。答。節過齒、波羅夷。
問。云何穀道作婬、波羅夷。答。過皮節入、波羅夷。
問。云何女根中作婬、波羅夷。答。過皮節入、波羅夷。（大正蔵 23, 1441:611c1–5）
なお、『薩婆多部毘尼摩得勒伽』において *Upāliparipṛcchā*（の Vibhaṅga 相当）に対応する箇所が巻第一と巻第八にあることに関しては、Clarke 2015, 81–82 参照。

(2) *Ad* VinSū sūtra 2.36: pradeśasyādy ādaṣṭatvaṃ daṣṭatā śūnatvaṃ klinnatā śaṭitatvaṃ khāditatā prāṇakair iti vigopitatā.
VinSūVṛSv MS 1.1:
yasyā vraṇamukhāny ādaṣṭāni vā bhavanti daṣṭāni vā klinnāni vā śaṭitāni vety atra grantha‹ḥ› |. … aparatrāyaṃ pāṭhaḥ. +ādaṣṭā[a)] vā | daṣṭā vā | śūn{y}ā **(Vb5.2)** vā • klinnā vā | śaṭi‹tā› vā | prāṇakair vvā khāditā iti |. tato atra śūnakhāditagrahaṇaṃ +kṛtam*[b)] |. (Xc 14/64 Vb5.1–2, cf. Nakagawa 1991, 259.11–14)[17] [a)] MS adaṣṭā. [b)] kṛmam*.
これに関して典籍が「［女性］の諸々の傷口（開口部）が噛みつかれたか、噛まれたか、湿っぽくなったか、腐敗した[18]［女性］」と、ある。……別の箇所において読みは次のものである：「［女性の三つの局部（pradeśa-）が］噛みつかれたか、噛まれたか、膨張したか、湿っぽくなった（腐った）か、腐敗したか、諸々の生物によって喰われた」と。それゆえ、ここ（この読み）では「膨張した」と「喰われた」という語が言われている。[19]

ここに引用される典籍に関して、根本説一切有部律の *Uttaragrantha* のうちの *Upāliparipṛcchā* における以下の箇所が参考になると考えられる。参考となる箇所を点線で表す。

Uttaragrantha 1:
btsun pa bcom ldan ’das kyis mi’i bud med gson por ñams pa źes gsuṅs pa gaṅ lags | ji tsam gyis na mi’i bud med gson por ñams pa źes bgyi | ñe ba ’khor ji tsam du cuṅ zad zin pa ’am | zin pa ’am | skraṅs pa ’am | rul ba ’am | myags pa ’am | srog chags dag gis zos par gyur pa de tsam gyis na mi’i bud med gson por ñams par źes brjod[a)] do ||　(D na 3a4–5, P pe 3a2–3)　[a)] P rjod.
「御身よ、世尊は『人の生きている女性に対して傷つける』とおっしゃいましたが、どれほどでもって人の生きている女性に対して傷つけるとなされたのですか？」「ウパーリよ、傷（開口部）が噛みつかれたか、噛まれたか、膨張したか、腐ったか、腐敗したか、生物によって喰われた限り、その限りでもって人の生きている［女性］に対して傷つけると言う」。

---

[17] VinSūVṛSv MS2:
+yasyā[a)] vraṇamukhāny ādaṣṭāni vā bhavanti | daṣṭāni vā klinnāni vā śaṭitāni vety (b+atra +granthaḥ[b)] |. … aparatrāyaṃ pāṭhaḥ |. ādaṣṭā vā +daṣṭā[c)] vā śūnā vā +klinnā[d)] vā śaṭitā vā prāṇakair vā +khāditā[e)] iti |. tat{r}o ‹’›tra śūnakhāditagrahaṇaṃ kṛtaṃ |.　(6v7, cf. Yonezawa 2022, 69.10–14)
[a)] MS yasya.　[b)] MS arthā.　[c)] MS daṣṭa.　[d)] MS klinna.　[e)] MS khādita.
VinSūVṛSv (Tib.):
gaṅ gi rma’i sgo rnams ma zin pa ’am zin par gyur pa rnams kyaṅ rul ba daṅ suṅs pa źes bya ba ’di gźuṅ ’di la … gźuṅ gźan las cuṅ zad zin tam | skraṅs pa ñid dam | rul ba ñid dam | srog chags dag gis zos pa ñid dam źes gsuṅs pa ste | de la ’dir skraṅs pa daṅ srog chags rnams kyis zin pa’i tshig byas pa yin no ||　(D źu 61a6–b1, P ’u 72a4–6)
[18] Cf. BHSD s.v. *? śaṭa-*.
[19] 内容に関して、中川 1987, 400–399 も参照。

Uttaragrantha 2, *Upāliparipṛcchā*:
btsun pa bcom ldan ’das kyis gson por ñams pa’o źes gsuṅs na | ji tsam gyis na gson por ñams pa źes bgyi | ji ltar rma byuṅ ṅam | rul ba ’am | źigs pa ’am | srog chags kyis zos par gyur pa de tsam gyis na de dag gson por ñams pa źes bya’o ‖ (D na 93a7–b1, P pe 88a2–3)
「御身よ、世尊は『生きている［女性］に対して傷つける』とおっしゃいましたが、どれほどでもって生きている［女性］に対して傷つけるとなされたのですか？」「傷（開口部）が生じたか、腐敗したか、壊されたか、生物によって喰われたように、その限りでもってそれらが生きている［女性］に対して傷つけると言われる」。[20]

二つの *Uttaragrantha* のうち *Uttaragrantha* 1 の点線部分は *yasyā vraṇamukhāny ādaṣṭāni vā bhavanti daṣṭāni vā śūnāni vā klinnāni vā śaṭitāni vā prāṇakair vā khāditāni であると想定されうる。

また、二つの *Uttaragrantha* の上記の箇所に対応する文が『十誦律』と『薩婆多部毘尼摩得勒伽』にもある[21]が、*Vinayasūtravṛttyabhidhānasvavyākhyāna* における引用文には相応しない。

(3) *Ad* VinSū sūtra 2.37: na madhyacchinnatve gamyasyāpy apahrāsaḥ
VinSūVṛSv MS 1.1:
grantho ‹’›tra. bhikṣus tāvad bhadantaḥ striyāṃ madhyacchinnikāyāṃ — na ca tra○yāṇāṃ vraṇamukhānāṃ anyatarānyatarad vraṇamukhaṃ vikopitaṃ bhavati — tatrābrahmacarya‹ṃ› pratisevate. kim āpadyate? ‹’›ntimām i{ti}ty. (Xc 14/64 Vb5.3, cf. Nakagawa 1991, 260.2–5)[22]

---

[20] Cf. *Āryamūlasarvāstivādiśrāmaṇerakārikāvṛttiprabhāvatī* [D śu 121b7, P hu 135b4–5].

[21] 『十誦律』巻第五十二
又問。如佛所説、若死女人身體不壞共行婬、得波羅夷。云何死女人身壞。答。若女根爛若墮若乾若脹若虫嚙、是中行婬、不得波羅夷、得偸蘭遮。若出精、僧伽婆尸沙。（大正蔵 23, 379b2–6）
『薩婆多部毘尼摩得勒伽』巻第一
云何女人瘡門壞。答。若一切壞半壞入、偸羅遮。精出、僧伽婆尸沙。女人中截虫不噉不燒三瘡門不壞入、犯波羅夷。若多虫噉若燒入、偸羅遮。精出、僧伽婆尸沙。（大正蔵 23, 569c21–25）
『薩婆多部毘尼摩得勒伽』巻第八
問。如佛所説、共活女瘡門不壞作婬、波羅夷。云何活女瘡門不壞。答。若兩邊等不壞、是名不壞。云何活女瘡門壞。若瘡門兩邊壞或爛墮。（大正蔵 23, 611c16–18）

[22] VinSūVṛSv MS 2:
(a+grantho +’tra a)). bhikṣus tāvad bhadantaḥ (7r1) striyāṃ ma{d}dhyachinnakāyāṃ — na ca trayāṇāṃ vraṇamukhānām anyatarānyataravraṇamukhaṃ vikopitaṃ bhavati — tatrābrahmacarya‹ṃ› pratisevat{{i}}e. kim āpadyate? ‹’›ntimām ity. (6v8–7r1, cf. Yonezawa 2022, 70.4–7) a) MS granthātra.
VinSūVṛSv (Tib.):

これに関して典籍がある：「御身よ、まず比丘が、［身体の］真ん中（腰）のところで分断された女性に対して、── そして／しかし、［その女性の］三つの傷口（開口部）のうちのある一つの傷口（開口部）がダメになっていない ── その［女性］に対して非梵行になずむ。［その場合、］何［の罪］に堕すのか？」「極［罪］である」と。[23]

ここに引用される典籍は、根本説一切有部律の *Uttaragrantha* のうちの *Upāliparipṛcchā* における以下の箇所であると考えられる。

Uttaragrantha 1:
btsun pa re źig[a)] bud med rked par bcad par gyur la | ’di’i rma’i sgo gsum las rma’i sgo gaṅ yaṅ ruṅ ba źig ma ñams par gyur pa de la yaṅ dge sloṅ gis mi tshaṅs par spyod pa ’khrig pa las byuṅ ba’i chos bsten na cir ’gyur lags | mthar ’gyur ro ||　(D na 2b2–3, P pe 2a8–b1)　[a)] P śig.
「御身よ、まず女性が腰のところで分断されていて、この［女性］の三つの開口部のうちのある一つの開口部がダメになっていない、さらにその［女性］に対して比丘が非梵行・結合から生じる法になずむならば、何［の罪］になりますか？」「極［罪］になる」。

Uttaragrantha 2, *Upāliparipṛcchā*:
btsun pa dge sloṅ gis bud med rked du bcad par gyur pa źig sgo gsum gyi bu gu las sgo’i bu gu gaṅ yaṅ ruṅ ste ma ñams par gyur pa der mi tshaṅs par spyod pa bgyid na cir ’gyur | mthar ’gyur ro ||　(D na 92b7–93a1, P pe 87b2–3)
「御身よ、腰のところで分断された女性が三つの入口の穴のうちのある一つの入口の穴がダメになっていない、その［女性］に対して比丘が非梵行になずむならば、何［の罪］になるのか？」「極［罪］になる」。

なお、『十誦律』と『薩婆多部毘尼摩得勒伽』にも同様の記述がある[24]が、引用文が合致するのは根本説一切有部律の *Uttaragrantha* の当該箇所である。

’dir gźuṅ ni | btsun pa re źig dge sloṅ gis bud med lus phyed du bkum la rma’i sgo gsum po rnams la rma’i sgo gźan daṅ gźan gaṅ yaṅ ruṅ ba źig ma ñams pa der mi tshaṅs par spyod pa so sor bsten na[a)] mthar ’gyur ram źes gsuṅs pa …　(D źu 61b3–4, P ’u 72a8–b1)　[a)] P nas.

[23] 内容に関して、中川 1987, 399 も参照。

[24]『十誦律』巻第五十二
又問。女人身作兩段、比丘還續行婬、得波羅夷不。答言。得。（大正蔵 23, 379a15–16）
『薩婆多部毘尼摩得勒伽』巻第一
若中破裂、三瘡門不壞、犯波羅夷。（大正蔵 23, 569c15–16）
『薩婆多部毘尼摩得勒伽』巻第八
問。女身中破、還合、共作婬、得何罪。答。若入大小便、波羅夷。口中作婬、偸羅遮。（大正蔵 23, 611c6–7）

(4) *Ad* VinSū sūtra 2.40: sthūlakṛtvaṃ pakvasya nirlomnaḥ sūkalādeḥ.[25]
VinSūVṛSv MS 1.1:
evaṃ sarvve tiryagyonigatā avagantavyā ity atra granthaḥ ||. (Xc 14/64 Vb5.6, cf. Nakagawa 1991, 261.4–5)[26]
「同様に諸々の畜生すべてが理解されるべきである」と、これに関して典籍がある。

ここに引用される典籍は、根本説一切有部律の *Uttaragrantha* のうちの *Upāliparipṛcchā* における以下の箇所であると考えられる。

Uttaragrantha 1:
btsun pa re źig[a)] dge sloṅ gis phag mo'i ro sregs[b)] pa spu ma mchis pa la mi tshaṅs par spyod pa 'khrig pa las byuṅ ba'i chos bsten na cir 'gyur lags | ñes pa sbom por 'gyur te | de bźin du dud 'gro'i skye gnas su gtogs pa thams cad la yaṅ brjod par bya'o || || (D na 2b6–7, P pe 2b5–6) [a)] P śig. [b)] D bsregs.
「御身よ、まず比丘が燃やされて毛のない雌豚の死体に対して非梵行・結合から生じる法になずむならば、何［の罪］になるのか？」「ストゥーラーティヤヤー罪になる」。同様に畜生すべてに関しても言われるべきである。

Uttaragrantha 2, *Upāliparipṛcchā*:
btsun pa dge sloṅ gis phag mo'i ro bsregs pa spu med pa la mi tshaṅs par spyod pa bgyid na cir 'gyur | ñes pa sbom por 'gyur te | byol soṅ gi skye gnas thams cad la yaṅ 'di bźin du brjod par bya'o || || (D na 93a4–5, P pe 87b6–7)
「御身よ、まず比丘が燃やされて毛のない雌豚の死体に対して非梵行・結合から生じる法になずむならば、何［の罪］になるのか？」「ストゥーラーティヤヤー罪になる」。畜生すべてに関しても同様に言われるべきである。

『十誦律』と『薩婆多部毘尼摩得勒伽』における *Upāliparipṛcchā* 対応箇所に

---

[25]「焼かれて毛のない猪（豚）などに対してはストゥーラ［ティヤヤー］をなすことである」。*Vinayasūtravṛttyabhidhānasvavyākhyāna* は、このスートラに対して「諸々の種類を包括するために、ここに ādi という語がある。それゆえ、毛のある諸々の畜生への示唆がこれによって知られるべきである（prakāropasaṃgrahārtham atrā[digraha]$_{(Vb5.6)}$naṃ. tasmāt salomnāṃ tiraścām anenākṣepo veditavyaḥ）」［VinSūVṛSv MS 1（Xc 14/64 Vb5.5–6; Nakagawa 1991, 261.2–4), cf. VinSūVṛSv MS 2（7r3; Yonezawa 2022, 71.4–5)］と説明したのちに、引用文を挙げる。

[26] VinSūVṛSv MS 2:
evaṃ sarve tiryagyonigatā $^{+}$avagantavyā[a)] ity atra granthaḥ || (7r3, cf. Yonezawa 2022, 71.5–6)
[a)] MS avagantavyam.
VinSūVṛSv (Tib.):
'dir gźuṅ ni | de ltar dud 'gro'i skyes[a)] gnas su skyes pa thams cad la gtogs par bya'o źes gsuṅs pa yin no || (D źu 62a2, P 'u 72b8–73a1) [a)] P skye.

おいても猪の記述は存在する[27]が、その記述が上記の引用文のようにすべての畜生に適用されるという文は見出されない。

(5) *Ad* VinSū sūtra 2.46: bāhyasya sīmnaḥ parastāt.
VinSūVṛSv MS 1.1:
bahirdanteṣu +vi○naśyaty[a]. āpadyate +sthūlātyayām[b] ity atra grantho veditavyaḥ |.
(Xc 14/64 IVa7.5, cf. Nakagawa 1991, 263.6–7)[28]
[a] MS vi○nasyaty. [b] MS sthūlātyayān.
「諸々の歯の外側において台なしにする。［その場合］ストゥーラーティヤヤー[29]に堕す」と、これに関して典籍が知られるべきである。

ここに引用される典籍は、根本説一切有部律の *Uttaragrantha* のうちの *Upāliparipṛcchā* における以下の箇所であると考えられる。

Uttaragrantha 1:
btsun pa re źig[a] dge sloṅ gis so'i phyi rol mchu'i naṅ du mi tshaṅs par spyod pa 'khrig pa las byuṅ ba'i chos bsten na cir 'gyur lags | ñes pa sbom por 'gyur ro ‖ (D na 2b5–6, P pe 2b4) [a] P śig.
「御身よ、まず比丘が歯の外側、唇の内側で非梵行・結合から生じる法になずむならば、何［の罪］になりますか？」「ストゥーラーティヤヤーになる」。

Uttaragrantha 2, *Upāliparipṛcchā*:
btsun pa dge sloṅ gis so'i phyi rol[a] mchu'i naṅ du mi tshaṅs par spyod pa bgyid na cir 'gyur | ñes pa sbom por 'gyur ro ‖ (D na 93a3–4, P pe 87b5–6) [a] P rol lam |.
「御身よ、比丘が歯の外側、唇の内側で非梵行を行いますならば、何［の罪］になりますか？」「ストゥーラーティヤヤーになる」。

---

[27] 『十誦律』巻第五十二［大正蔵 23, 379b8–10］、『薩婆多部毘尼摩得勒伽』巻第一［大正蔵 23, 569c26–27］、巻第八［大正蔵 23, 611c21］.

[28] VinSūVṛSv MS 2:
+bahirdanteṣu[a] +vinaśya(7r8)ty[b]. āpadyate +sthūlātyayām[c] ity atra grantho +veditavyaḥ[d] | (7r7–8, cf. Yonezawa 2022, 72.16–17)
[a] MS bahiḥdanteṣu. [b] MS vinasyaty. [c] MS sthūlātyayān. [d] MS veditavyaṃ.
VinSūVṛSv (Tib.):
'dir gźuṅ ni | so'i phyi rol tu[a] ñams par byed na ñes pa sbom po'i ltuṅ bar 'gyur ro źes gsuṅs pa yin no ‖ (D źu 62b7, P 'u 73b8–74a1) [a] D du.

[29] sthūlātyaya- はパーリ語で thullaccaya- であるが、thullaccaya- の最新の研究として李 2018 がある：「パーリ律に見られる偸蘭遮の用例をみると，結果を伴うか否かに重点をおいて判断する未遂罪と理解するよりは，戒を犯す過程で，対象あるいは対象に対する分別あるいは意図，あるいは結果において何かの欠陥が生じた時に，幅広く適用され得る罪と理解した方がより妥当である」［李 2018, 908］。

VinSūVṛSv MS 1.1 と MS 2、および (Tib.) には、根本説一切有部律の *Uttara-grantha* 1 と 2 における「唇の内側で（mchu'i naṅ du）」に対応するものが存在しない。また、「台なしにする（+vinaśyati）」という語は *Upāliparipṛcchā* の「非梵行・結合から生じる法になずむ（mi tshaṅs par spyod pa 'khrig pa las byuṅ ba'i chos bsten）」や「非梵行を行います（mi tshaṅs par spyod pa bgyid）」とは異なっている。

『薩婆多部毘尼摩得勒伽』における *Upāliparipṛcchā* 対応箇所には上記の引用文に対応する文は見出されないが、『十誦律』における *Upāliparipṛcchā* 対応箇所には同様の記述が存在する[30]。

なお、「歯の外側」ではなく、歯の内側へ越え入った場合には（1）を参照。

1.2. Vinītakāni

(6) *Ad* VinSū sūtra 2.51: bhikṣubhāvāsaṃcetanaṃ prakṛtināśaḥ.
VinSūVṛSv MS 1.1 [Xc 14/64 IVb7.1–2][31] (Nakagawa 1991, 265.6–8)[32]

この引用文の典拠については、Clarke 2016, 100（Appendix 1); 116–117（Appendix 2, [7]）参照。

(7) *Ad* VinSū sūtra 2.53: kupitatvaṃ śikṣāyāḥ sevāṃ prati parasyābhyupagatau.
VinSūVṛSv MS 1.1 [Xc 14/64 IVb7.3–4] (Nakagawa 1991, 265.17–266.4)[33]

この引用文の典拠については、Clarke 2016, 107（Appendix 1); 146–148（Appendix 2, [40]）参照。

(8) *Ad* VinSū sūtra 2.55: sthūlam asyāṃ bhikṣoḥ.
VinSūVṛSv MS 1.1 [Xc 14/64 IVb7.5–6] (Nakagawa 1991, 266.13–16)[34]

この引用文の典拠については、Clarke 2016, 92–93; 107（Appendix 1); 148–150（Appendix 2, [42a]）参照。

---

[30]『十誦律』巻第五十二
又問。若齒外脣裏行婬、得何罪。答。得偸蘭遮。若出精、得僧伽婆尸沙。（大正蔵 23, 379a21–23）

[31] ゲッティンゲン図書館に保管されている Xc 14/64 の中の "00000012" と "00000013" という画像ファイル（8 枚の片面フォリオ）は、まったく同一であるので、本稿では "00000012" と "00000013" のどちらとも IVb として扱う。

[32] VinSūVṛSv MS 2 [7v3] (Yonezawa 2022, 73); VinSūVṛSv (Tib.) [D źu 63b1–2, P 'u 74b2–4].

[33] VinSūVṛSv MS 2 [7v4–5] (Yonezawa 2022, 74); VinSūVṛSv (Tib.) [D źu 63b4–6, P 'u 74b7–75a1].

[34] VinSūVṛSv MS 2 [7v6] (Yonezawa 2022, 74–75); VinSūVṛSv (Tib.) [D źu 64a1–3, P 'u 75a4–6].

(9) *Ad* VinSū sūtra 2.66: vahisparśane sevyasya tanmātraparatayāṅgajātena.
VinSūVṛSv MS 1.1 [Xc 14/64 IVa8.4–5] (Nakagawa 1991, 269.8–11)[35]

この引用文の典拠については、Clarke 2016, 109（Appendix 1); 164–165（Appendix 2, [60]）参照。

(10) *Ad* VinSū sūtra 2.69: nāgraprṣṭhayor yata ārambhas tato ‹’›nyato niṣṭhāne.
VinSūVṛSv MS 1.1 [Xc 14/64 IVa8.6] (Nakagawa 1991, 270.3–5)[36]

この引用文の典拠については、Clarke 2016, 104（Appendix 1); 136–137（Appendix 2, [22a]）参照。

(11) *Ad* VinSū sūtra 2.74: sthūlakṛtvam anayor amārge.
VinSūVṛSv MS 1.1 [Xc 14/64 IVb8.1–2] (Nakagawa 1991, 271.6–9)[37]

この引用文の典拠については、Clarke 2016, 90–91; 101（Appendix 1); 120–123（Appendix 2, [10c–h]）参照。

(12) *Ad* VinSū sūtra 2.79: na yatra prāṇātyayāpātas tatrāraṇye prativaset.
VinSūVṛSv MS 1.1:
na ca punar bhikṣuṇā tadrūpāṇy āraṇyāny adhyāvasitavyāni, yatraivaṃrūpaṃ bhayaṃ bhavatīty atra granthaḥ ||. (Xc 14/64 IVb8.4, cf. Nakagawa 1991, 272.6–8)[38]
「そして、さらに比丘によって、このような恐れが生じる、荒野に属する、そのような諸々の［場所］が逗留されるべきではない」と、これに関して典籍がある。

この引用文そのものはClarke 2016において明示されていないのであるが、Clarke 2016, 162–163の［58］においてスートラ2.79が取り扱われていて、引用文に対応していると考えられる*Vinītaka*の以下の箇所が強調されている［Clarke 2016, 162］。

---

[35] VinSūVṛSv MS 2 [8r3] (Yonezawa 2022, 76); VinSūVṛSv (Tib.) [D źu 64b6–65a1, P ’u 76a5–6].
[36] VinSūVṛSv MS 2 [8r4] (Yonezawa 2022, 77); VinSūVṛSv (Tib.) [D źu 65a3–4, P ’u 76b1–2].
[37] VinSūVṛSv MS 2 [8r6] (Yonezawa 2022, 77); VinSūVṛSv (Tib.) [D źu 65b1–3, P ’u 76b8–77a2].
[38] VinSūVṛSv MS 2:
na ca +punar[a)] bhikṣuṇ{{y}}ā tadrūpāṇy āraṇyāny adhyāvasitavyāni, yatraivaṃrūpaṃ bhayaṃ bhavatīty atra granthaḥ | (8r8, cf. Yonezawa 2022, 78.11–12) [a)] MS punaḥ.
VinSūVṛSv (Tib.):
’dir gźuṅ ni | yaṅ dge sloṅ gis gaṅ na ñes dmigs de lta bu yod pa’i dgon pa de lta bur[a)] lhag par gnas par mi bya ste | gaṅ na ’di lta bu’i ’jigs pa’i ṅo bo yod par gyur pa’i źes gsuṅs pa yin no || (D źu 65b7, P ’u 77a7–8) [a)] D bar.

bcom ldan ’das kyis bka’ stsal pa | ñes pa med de | phyin chad dge sloṅ gis gaṅ du ’di lta bur ’jigs par ’gyur ba’i dgon par ma gnas śig |
世尊はおっしゃった。「罪はない。今後、比丘はこのように恐れが生じる荒野に住むな」。

2. パーラージカー第二条

Vinayasūtra においてパーラージカー第二条は Vibhaṅgaḥ、Kṣudrakagatam、Pṛcchāgatam、Vinītakāni というセクションからなるが、これらのうち *Vinayasūtravṛttyabhidhānasvavyākhyāna* において Vibhaṅgaḥ に 20 箇所[39]と Kṣudrakagatam に 4 箇所、Pṛcchāgatam に 24 箇所、そして Vinītakāni に 8 箇所の引用が存在する。本稿では、Vibhaṅgaḥ における 20 箇所を取り扱う[40]。

2.1. Vibhaṅgaḥ

(1) *Ad* VinSū sūtra 2.90: adattasya.
VinSūVṛSv MS 1.1:
nāsya dattaṃ bhavati strīpuruṣapaṇḍakair iti vacanam āgamaḥ |. (Xc 14/64 Vb1.2, cf. Nakagawa 1996, 20.7)[41]
「彼に女性や男性や黄門によって与えられていない」という言葉が伝承（聖典）である。

この引用文の典拠は、根本説一切有部律の *Vinayavibhaṅga* において *Prātimokṣa* の adattaṃ という語に対して語義解釈を行なう箇所であると考えられる。

---

[39] VinSū sutra 2.129: manuṣyasya saṃketena cet tatsaṃpattiḥ に対して、VinSūVṛSv (Tib.) は「典籍に基づくと（gźuṅ las）」[D źu 75a4, P ’u 87b6] として引用するが、サンスクリット語写本にはそれに対応する語（grantha-）が用いられていない［MS 1.1（Xc 14/64 Vb7.7), MS 2（11v3)］ので、本稿では取り扱わない。しかし、この箇所は *Vinayavibhaṅga*［D ca 88a1–5, P che 79a1–5;『根本説一切有部毘奈耶』巻第四（大正蔵 23, 1442: 646b26–c5)］に関連する。

[40] *Vinayasūtra* および *Vinayasūtravṛttyabhidhānasvavyākhyāna* が Vibhaṅga 関連箇所において『根本説一切有部毘奈耶』に特有の記述を有しているということは Shōno 2018 において示したので、*Vinayasūtravṛttyabhidhānasvavyākhyāna* の Vibhaṅga 関連箇所に関しては『根本説一切有部毘奈耶』のみを使用し、『十誦律』は用いない。また、本稿で扱うパーラージカー第二条の（1)〜(14）に関する *Vinayasūtravṛttyabhidhānasvavyākhyāna* のテキスト全体を Yonezawa Forthcoming が取り扱っている（ただし、スートラ番号は更新されている)。

[41] VinSūVṛSv MS 2:
(8v4) nāsya dattaṃ bhavati strīpuruṣapaṇḍakair iti vacanam āgamaḥ |. (8v4)
VinSūVṛSv (Tib.):
’dir luṅ ni[a)] de la bud med dam skyes pa ’am ma niṅ dag gis kyaṅ ma byin pa źes gsuṅs pa de yin no || (D źu 66b4, P ’u 78a6) [a)] D ni |.

Vinayavibhaṅga:
ma byin pa źes bya ba ni de la skyes pa ’am | bud med dam | ma niṅ gaṅ gis kyaṅ ma byin pa’o ‖ (bKa’ ’gyur, ’Dul ba; D 3: ca 58a3, P 1032: che 51b5–6)[42]
「与えられていない（adattaṃ)」とは、彼にいかなる男性や女性や黄門によっても与えられていない、である。

(2) *Ad* VinSū sūtra 2.91: pañcamāṣikādeḥ.
VinSūVṛSv MS 1.1:
pañca$_{(Vb1.3)}$māṣikam vā bhavaty uttarapañcamāṣikaṃ vety atra granthaḥ ‖ (Xc 14/64 Vb1.2–3, cf. Nakagawa 1996, 20.10)[43]
「５マーシカか、あるいは５マーシカ以上になる」と、これに関して典籍がある。

「５マーシカか、あるいは５マーシカ以上」ということは至るところで述べられるが、次の箇所を参考として挙げる。

Vinayavibhaṅga:
ji ltar lci ba yin źe na | ma śa ka lṅa ’am | ma śa ka lṅa las lhag pa ste | de ltar lci ba yin no ‖ (D ca 59b1–2, P che 53b1)[44]
「重物とはどのようであるのか？５マーシカか、あるいは５マーシカ以上である。重物とはこのようである」。[45]

(3) *Ad* VinSū sūtra 2.94: tatsaṃjñayā.
VinSūVṛSv MS 1.1:
grantho ‹’›tra. yathāpi tad bhikṣu○r evaṃsamjñī[46] bhavati. itīme gurukāḥ pariṣkārāḥ paraiḥ parigṛhītāḥ $^{+}$strīpuruṣapaṇḍak[ai]r$^{a)}$ i{{ti}}tyādi. (Xc 14/64 Vb1.4, cf.

---

[42]『根本説一切有部毘奈耶』巻第二
不與者、謂無人授與。（大正蔵 23, 1442: 637b1）
[43] VinSūVṛSv MS 2:
pañcamāṣikam vā bhavaty uttara○pañcamāṣikaṃ vety atra granthaḥ ‖. (8v4)
VinSūVṛSv (Tib.):
’dir gźuṅ ni | ma śa ka lṅa ’am ma śa ka lṅa las lhag pas źes gsuṅs pa yin no ‖ (D źu 66b4–5, P ’u 78a6–7)
[44]『根本説一切有部毘奈耶』巻第二
云何體是重物。若滿五磨灑若過五磨灑。（大正蔵 23, 637c13–14）
[45] *Vinayavibhaṅga* の以下の箇所においても「５マーシカか、あるいは５マーシカ以上」ということが述べられるが、この箇所は *Prātimokṣa* の yadrūpeṇādattādānena という語に対する語義解釈の箇所であるので、サンスクリット語は instr.形が想定される。
ji tsam ma byin par blaṅs pas źes bya ba ni ma śa ka lṅa ’am | ma śa ka lṅa las lhag pas so ‖ (D ca 58a4, P che 51b6–7)
[46] SWTF s.v. *evaṃ-saṃjñin*.

Nakagawa 1996, 21.3–5)[47]　a) MS stripuruṣa°.
これに関して典籍がある：「以下のように、比丘が次のような想いをもつ：『このようにこれら諸々の重物は他の者たち、女性や男性や黄門によって掴み取られている』と」云々と。

ここに引用される典籍は、根本説一切有部律の *Vinayavibhaṅga* における以下の箇所であると考えられる。

Vinayavibhaṅga:
gźan yaṅ dge sloṅ gis gźan dag gi yo byad lci ba dag rgyu gsum gyis ma byin par len na pham par ’gyur ro || gsum gaṅ źe na | gźan gyis yoṅs su bzuṅ bar ’du śes pa daṅ | lci ba daṅ | gnas nas gnas su sbed pa’o || ji ltar gźan gyis yoṅs su bzuṅ bar ’du śes pa yin źe na | ’di lta ste | dge sloṅ gis ’di ltar yo byad lci ba ’di dag gźan skyes pa ’am | bud med dam | ma niṅ dag[a)] gis yoṅs su bzuṅ bar ’du śes pa ste | de ltar gźan gyis yoṅs su bzuṅ[b)] bar ’du śes pa yin no || ji ltar lci ba yin źe na | ma śa ka lṅa ’am | ma śa ka lṅa las lhag pa ste | de ltar lci ba yin no || ji ltar gnas nas gnas su sbed ce na | gnas gaṅ du bźag par gyur pa’i gnas de nas spags śiṅ gnas gźan du ’jog par byed pa ste | de ltar gnas nas gnas su sbed do || dge sloṅ gis gźan dag gi yo byad lci ba dag rgyu de gsum gyis ma byin par len na pham par ’gyur ro ||　(D ca 60a2–6, P che 53a7–b2)[48]　a) P daṅ.　b) P gzuṅ.
さらにまた、三つの条件で比丘が他の者たちの諸々の重物を与えられていないのに取るならば、パーラージカーになる。三つ［の条件］とは何か？他の者［たち］によって取られていると想うことと重［物］と［ある］場所から［別の］場所へ移動させる（cyāvayati）ことである。他の者［たち］によって取られていると想うこととはどのようであるのか？以下のように、比丘が「このようにこれら諸々の重物は他の者たち、男性や女性や黄門によって取られている」と想うことである。他の者［たち］によって取られていると想うこととは、そのようである。重物とはどのようであるのか？５マーシカか、あるいは５マーシカ以上である（Pārājikā 2.(2)）。重物とは、そのようである。［ある］場所から［別の］場所へ移動させる（cyāvayati）こととはどのようで

---

[47] VinSūVṛSv MS 2:
grantho ‹’›tra. yathāpi +tad[a)] bhikṣur evaṃsamjñī bhavati. itīme gurukāḥ ○ +pariṣkārāḥ[b)] paraiḥ parigṛhītāḥ strīpuruṣapaṇḍakair ityādi. (8v5)　a) MS tat.　b) MS pariskārāḥ.
VinSūVṛSv (Tib.):
’dir gźuṅ ni | ’di lta ste | dge sloṅ gis ’di ltar yo byad lci ba ’di rnams ni gźan skyes pa ’am bud med dam ma niṅ rnams kyis yoṅs su bzuṅ bar ’du śes pas te źes bya ba la sogs pa’o ||　(D źu 66b7–67a1, P ’u 78b2–3)

[48]『根本説一切有部毘奈耶』巻第二
復有三縁。苾芻於他重物不與而取、得波羅市迦。云何爲三。作他掌物想、體是重物、離本處。云何他掌物想。若苾芻作如是念。此物是他女男等所掌。作他物想。餘如上説。（大正蔵 23, 637c25–28）

あるのか？［ある］場所に置かれているその場所から動かして別の場所に置くことである。［ある］場所から［別の］場所へ移動させることとは、そのようである。その三つの条件で比丘が他の者たちの諸々の重物を与えられていないのに取るならば、パーラージカーになる。

(4) *Ad* VinSū sūtra 2.95: anapetatvaṃ svāmitvasyāpahṛtatve ’nutsṛṣṭatāyām āśayena.
VinSūVṛSv MS 1.1:
yathāpi tac +celadhāvakasya[a)] vastrāṇi dhāvata ityādy atra granthaḥ. (Xc 14/64 Vb1.6, cf. Nakagawa 1996, 21.13)[49] [a)] MS celādhāvakasya.
「以下のように、諸々の衣を洗っている、布を洗う者の」云々と、これに関して典籍がある。

この引用文に関して、パーラージカー第二条（12）参照。

(5) *Ad* VinSū sūtra 2.96: bhavaty adhiṣṭhātur apātrāgatīye svāmitvaṃ.
VinSūVṛSv MS 1.1:
[saced asyaivaṃ bhavati. manuṣyasya harāmi, na pakṣiṇa iti ||. manuṣyasakā](śān mū)[lyaṃ][50] **(Va1.2)** gaṇayitavyam ityādi granthaḥ |. (Xc 14/64 Va1.1–2, cf. Nakagawa 1996, 22)[51]
「もし彼に次のように『人の［ものを］私は奪おう。鳥の［ものを］ではなく』という［思いが］生じるならば。［その場合］人［のもの］に基づいて価値が計算されるべきである」云々と、典籍がある。

この引用文に関して、パーラージカー第二条（16）と（9）参照。[52]

---

[49] VinSūVṛSv MS 2:
+yathāpi[a)] tac +colakadhāvakasya[b)] +vastrāṇi[c)] dhāvata ityādy atra granthaḥ | (8v6)
[a)] MS yadāpi. [b)] MS colakadhovakasya. [c)] MS vastrāni.
VinSūVṛSv (Tib.):
’dir gźuṅ ni | ji ltar yaṅ btso blag mkhan gyis [a]gos rnams btiṅ ba[a)] źes bya ba la sogs pa’o || (D źu 67a4, P ’u 78b7) [a)] The words *gos rnams btiṅ ba* suggest *vastrāṇi saṃstarata*/*āstarata*.

[50] Nakagawa 1996, 22, note 18: “the condition of this folio is not good, especially the right half of it is undecipherable.”

[51] VinSūVṛSv MS 2:
saced asyaivaṃ bhavati. manuṣyasya h{{ā}}arāmi, na pakṣiṇa iti |. +manuṣyasakāśān[a)] mūlyaṃ ga{{ṃ}}ṇayitavyam ityādi granthaḥ | (8v8) [a)] MS manuśasakaśāt.
VinSūVṛSv (Tib.):
de ltar ’dir gźuṅ ni | gal te de ’di sñam du mi las brku bar bya’i bya rnams las ma yin no źes bya ba daṅ | mi las rin thaṅ brtsi bar bya źes bya ba la sogs pa gsuṅs pa yin no || (D źu 67b2, P ’u 79a5–6)

[52] Cf. yadi manuṣyasya harāmīty evaṃsamjñī bhavati, tataḥ parājayaḥ. (Xc 14/64 Vb1.4, 8v5 *ad* VinSū sūtra 2.94)

(6) *Ad* VinSū sūtra 2.96: asatvam āśayānubandhasyābhyavahārāya dāne.
VinSūVr̥Sv MS 1.1:
tasyām avasthāyāṃ tiraścaḥ pānīyapratyaṃśasya mūlyaṃ gaṇayitavyam iti yat tato ’dattādānasyotthānam uktam, eṣo ‹’›trāga○maḥ ||. (Xc 14/64 Va1.3, cf. Nakagawa 1996, 22)[53]
「その状態において畜生にとっての水の取り分の価値が計算されるべきである」というそれに基づいて、与えられていないものを取ることの出現が言われていること、これがこれに関して伝承（聖典）である。

この引用文の典拠は、根本説一切有部律の *Vinayavibhaṅga* における以下の箇所であると考えられる。

Vinayavibhaṅga:
’di ltar tshoṅ pa rab tu maṅ po dag zoṅ khyer te dgon pa’i lam du źugs pa na de na chu dkon źiṅ rin che bar gyur pa’i tshe de dag gis der snod sna tshogs ’di lta ste | rdza ma dag daṅ | phru ba dag daṅ | ril ba dag daṅ | ra rkyal[a)] dag gis chu’i tshogs byas śiṅ de na chu’i tshad mi la ’di tsam źig go |[b)] dud ’gro la ni ’di tsam źig go |[c)] źes sbyin par byed pa na | dge sloṅ gis rku sems kyis mi’i skal ba’i chu bdag gir byed na | de’i gnas skabs su mi’i skal ba’i chu’i rin thaṅ brtsi bar bya źiṅ dṅos po tshaṅ na pham par ’gyur la | dṅos po ma tshaṅ na ñes pa sbom por ’gyur ro || gal te dud ’gro’i skal ba’i chu bdag gir byed na | de’i gnas skabs su dud ’gro’i skal ba’i chu’i rin thaṅ brtsi bar bya źiṅ dṅos po tshaṅ na ñes pa sbom por ’gyur la | dṅos po ma tshaṅ na ñes byas su ’gyur ro || (D ca 70b5–7, P che 63a1–4)[54] a) P rgyal. b) D ||. c) D omits |.
このように非常に多くの商人たちが商品を運んでいて、荒野の道に入り、そこで水が貴重で大いなる価値を有するものになるとき、彼らがそこで種々の容器、つまり諸々の水瓶、諸々の土瓶、諸々の小瓶、諸々の皮袋でもって水の蓄積をなしつつそこにおいて水の量を「人に対してこれほどである。畜生に対してはこれほどである」と与えるとき、比丘が盗むという心でもって人の取り分である水を自分のものとするならば、その状態において人の取り分である水の価値が計算されるべきであり、要件を満たすならばパーラージカ

---

[53] VinSūVr̥Sv MS 2:
tasyām avasthāyāṃ {te} +tiraścaḥ[a)] pānīyapratyaṃśasya mūlyaṃ gaṇayitavya{{ṃ}}m iti yat tato ’dattādānasyotthāna{{ṃ}}m uk‹t›am, eṣo ‹’›trāgamaḥ | (9r1) a) MS tiraṣcaḥ.
VinSūVr̥Sv (Tib.):
’dir luṅ[a)] ni[b)] gnas skabs de la dud ’gro rnams kyi skal ba’i chu’i rin thaṅ de rnams kyis brtsi bar bya źes gsuṅs pa gaṅ yin pa de las ma byin par len pa bskyed do || (D źu 67b5, P ’u 79b1)
a) D gźuṅ. b) D ni |.

[54]『根本説一切有部毘奈耶』巻第三
若多商旅持衆貨物、過彼險途。其水難得、以衆器具持水而行。若甕、若瓨、若瓶、若皮囊。然於人畜水有分齊。苾芻起盗心、興方便。若取人水分、未觸及觸、准前得罪。若傍生分、滿五、得窣吐羅底也。不滿、得惡作罪。（大正蔵 23, 640b29–c5）

ーに、要件を満たさないならばストゥーラーティヤヤー罪になる。もし畜生の取り分である水を自分のものとするならば、その状態において畜生の取り分である水の価値が計算されるべきであり、要件を満たすならばパーラージカーに、要件を満たさないならばストゥーラーティヤヤー罪になる。

(7) *Ad* VinSū sūtra 2.109: asvāmikasya nidheḥ.
VinSūVr̥Sv MS 1.1:
tathā ca granthaḥ. sa upasthāyakān āha. triloṭhakaṃ yavāgūṃ ca pratijāgr̥ta{ṃ}. saṃghasya dāsye, svayañ ca paribhokṣye. tena teṣām iyautitaṇaṃ dattaṃ. teṣāṃ bhavati. kim asmākaṃ triloṭhakena yavāgūnāṃ[a] ca kr̥t{y}aṃ? etasya +vayaṃ[b] triloṭhakaṃ yavāgūṃ ca {{[da]}}datvā kimicchakā[n vaṇṭay]i(Va2.3)ṣyāmas. te tasya triloṭhakaṃ yavāgūṃ ca datvā kimicchakān vaṃṭa{{ṃ}}yaṃti. teṣāṃ kaukr̥tyaṃ jātaṃ. bhagavān āha ○ |. anāpatti‹ḥ› pārājayikāyā, āpadyante sthūlātyayām iti. (Xc 14/64 Va2.2–3, cf. Nakagawa 2000b, 174.7–13)[55]
[a] Possibly read yavāgūbhiś. [b] MS viyaṃ.
そして、典籍は次のようである：「彼は、［病人を］看病する者たちに言う：『三つの穀物料理（？）と米スープを君たちは準備しなさい[56]。私が僧団に与え、私自ら食べよう』。彼によって彼らに物品（？）[57]が与えられた。彼らに［次の思いが］生じた：『私たちにとって三つの穀物料理（？）と米スープが何になるのか？この者に私たちは穀物料理（？）と米スープを与えたのちに、望む諸々のものを分配しよう』。彼らは彼に穀物料理（？）と米スープを与えたのちに、望む諸々のものを分配する。彼らに後悔が生じた。世尊は言う：『パーラージカー罪はない。［彼らは］ストゥーラーティヤヤーに堕す』」と。

---

[55] VinSūVr̥Sv MS 2:
tathā ca granthaḥ. sa upasthāyakān āha. triloṭhakaṃ yavāgūṃ ca pratijāgr̥ta. saṃghasya dāsye, svayaṃ ca paribho(9v4)kṣ‹y›e. tena teṣām vyayakaraṇaṃ {{.. ..}} dattaṃ. teṣāṃ bhavati. kim asmākaṃ triloṭhakena yavāgūnāṃ[b] ca kr̥t{y}am? etasya vayaṃ triloṭhakaṃ yavāgūṃ ca datvā kimi○cchakān* vaṇṭayiṣyāmas. te tasya triloṭhakaṃ yavāgūñ ca datvā kimicchakān vaṇṭayanti. teṣāṃ +kaukr̥tyaṃ[a] jātaṃ. bhagavān āha. anāpatti‹ḥ› +pārājayikāyā[c], ā○padyante sthūlātyayikām +iti[d] |. (9v3–4)
[a] Possibly read yavāgūbhiś. [b] MS kokr̥tyaṃ. [c] MS parājayikāyā. [d] MS ita.
VinSūVr̥Sv (Tib.):
de ltar na gźuṅ ni | des nad g-yog la smras pa | khur ba sna gsum daṅ [a]thug pa sta gon gyis śig daṅ dge ’dun la yaṅ dbul raṅ yaṅ bza’ btuṅ bya’o źes zer nas des de dag la zoṅ phog go || de dag ’di sñam du bdag cag la khur ba sna gsum pa daṅ thug pas ci bya | ’di la khur ba sna gsum daṅ[a] thug pa źig byin la zoṅ bdag cag gis bgo bar bya’o sñam nas de dag gis de la khur ba sna gsum pa daṅ thug pa źig byin te zoṅ bgos so || de la ’gyod pa skyes nas bcom ldan ’das kyis bka’ stsal pa | pham par ’gyur ba’i ltuṅ ba ni med de | ñes pa sbom po’i ltuṅ bar ’gyur ro źes gsuṅs pa yin te | (D źu 69b2–4, P ’u 81b2–4) [a] P omits these words.
[56] BHSD s.v. *pratijāgarti*, °*jāgarati*, °*jāgrati*, 4 参照。
[57] チベット訳の zoṅ に基づいて訳した。この引用文内の対応関係では、zoṅ は kimicchaka- を示唆する。なお、VinSūVr̥Sv MS 2 には vyayakaraṇaṃ とある。

ここに引用される典籍は、根本説一切有部律の *Vinītaka*［D pa 5b6–6a1, P phe 6b7–7a3］であると考えられる[58]。

(8) *Ad* VinSū sūtra 2.110: svasya.
VinSūVṛSv MS 1.1:
tathā ca granthaḥ. tasmān na bhikṣuṇā svakam api pātracīvaraṃ steyacittenodgrahītavyaṃ. bhikṣuḥ svakam api pātracīvaraṃ steyacittenodgṛhṇāti. āpa[dyate] (sthūlātyayā)**(Va2.7)**[m] iti. (Xc 14/64 Va2.6–7, cf. Nakagawa 2000b, 178.4–6)[59]
そして、典籍は次のようである：「それゆえ、比丘によって自分の鉢と衣さえも盗むという心でもって持ち上げられるべきではない。比丘が自分の鉢と衣さえも盗むという心でもって持ち上げる。［その場合］ストゥーラーティヤヤーに堕す」と。

ここに引用される典籍は、根本説一切有部律の *Vinayavibhaṅga* における以下の箇所であると考えられる。

Vinayavibhaṅga:
dge sloṅ dag de ltar rku sems la ni ñes dmigs ’di daṅ gźan dag kyaṅ yod pas de’i phyir dge sloṅ gis rku sems kyis raṅ gi lhuṅ bzed daṅ | chos gos kyaṅ blaṅ bar mi bya’o || dge sloṅ gis rku sems kyis raṅ gi lhuṅ bzed daṅ chos gos len na ñes pa sbom por ’gyur ro ||　(D ca 92b5–6, P che 83a6–7)[60]
比丘たちよ、そのように盗むという心にはこれと他の過失もあるので、それゆえ比丘によって盗むという心でもって自分の鉢と衣さえも取られるべきではない。比丘が盗むという心でもって自分の鉢と衣を取るならば、ストゥーラーティヤヤー罪に堕す。

---

[58] *Āryamūlasarvāstivādiśrāmaṇerakārikāvṛttiprabhāvatī* は *’Dul byed*（*Vinītaka*）からであると明示して同一内容のテキストを引用する［D śu 92b6–93a1, P hu 101b8–102a3］。

[59] VinSūVṛSv MS 2:
(9v7) tathā ca granthaḥ |. tasmān na bhikṣuṇā svakam api pātracīvaraṃ ⁺steyacittenodgṛhītavyaṃ[a)] |. bhikṣu‹ḥ› svakam api pātracīvaraṃ ⁺steyacittenodgṛhṇāti[b)]. āpadyate sthūlātyayām iti |. (9v7)
[a)] MS °notgṛhītavyaṃ. Cf. BHSD §34.21.　[b)] MS °notgṛhnāti.
VinSūVṛSv (Tib.):
de ltar yaṅ gźuṅ ni | de’i phyir dge sloṅ gis raṅ gi lhuṅ bzed daṅ chos gos kyaṅ rku sems kyis blaṅ bar mi bya’o || gal te dge sloṅ gis raṅ gi lhuṅ bzed daṅ chos gos kyaṅ [(a]rku sems kyis[a)] len na ñes pa sbom por ’gyur ro źes gsuṅs pa yin no ||　(D źu 70a3–4, P ’u 82a4–5)　[a)] P omits these words.

[60]『根本説一切有部毘奈耶』巻第五
告諸苾芻。汝等當知。若盗心取、有此過失。是故苾芻雖己衣鉢、不應以盗心取。若盗取者、得窣吐羅底也罪。（大正蔵 23, 648a27–29）

(9) *Ad* VinSū sūtra 2.110: anyagateḥ.
VinSūVṛSv MS 1.1:
saced asyaivaṃ bhavati. pakṣiṇo harāmi, na manuṣyasyetyādy atra granthaḥ. (Xc 14/64 IVa3.1)[61]
「もし彼に次のように『鳥の［ものを］私は奪おう。人の［ものを］ではなく』という［思いが］生じるならば」云々と、これに関して典籍がある。

ここに引用される典籍は、根本説一切有部律の *Vinayavibhaṅga* における以下の表現であると考えられる。パーラージカー第二条内に四箇所あるが、最初の箇所を挙げる。

Vinayavibhaṅga:
nom par byed | ñug par byed ciṅ ji sriṅ du gnas nas gnas su sbed par mi byed la | de ’di sñam du bya las brku bar bya’i mi las ma yin no sñam du sems na ñes byas su ’gyur ro ‖ (D ca 63b7–4a1, P che 57a1–2)[62]
触れ（āmṛśati）、掴む（parāmṛśati）、乃至、［ある］場所から［別の］場所へ移動させない（na cyāvayati）場合に、彼が次のように「鳥から盗むことになるが、人からではない」と思うならば、ドゥシュクリター罪になる。

パーラージカー第二条（16）も参照。

(10) *Ad* VinSū sūtra 2.114: prayogaprayogatvaṃ prāgāmarśāt.
VinSūVṛSv MS 1.1:
grantho ‹’›tra. yāvan +nāmṛśati[a)] na +parāmṛśaty[b)]. āpadyate duṣkṛtām. āmṛśati parāmṛśati yāvat sthānāt sthānaṃ na cyāvayaty. āpadyate sthūlātyayām iti. (Xc 14/64 IVb3.1)[63] [a)] MS nāmṛṣati. [b)] MS parāmṛṣaty.

---

[61] VinSūVṛSv MS 2:
saced asyaivaṃ bhavati. pakṣiṇo harāmi, na +ma**(10r1)**nuṣyasyetyādy[a)] atra granthaḥ. (9v8–10r1)
[a)] MS ma**(10r1)**ṣyasyaityādy.
VinSūVṛSv (Tib.):
’dir gźuṅ ni | de ’di sñam du gal te[a)] bya’i rku’i mi’i ni ma yin no sñam na źes bya ba la sogs pa yin no ‖ (D źu 70b1–2, P ’u 82b2) [a)] P te |.
[62]『根本説一切有部毘奈耶』巻第三
若觸未離本處、作鳥物想、得惡作罪。（大正蔵 23, 638c27）
[63] VinSūVṛSv MS 2:
grantho ‹’›tra. yāvan nāmṛśate na +parāmṛśate[a)]. āpadyate duṣkṛtā**(10r6)**m. āmṛśate +parāmṛśate[b)] yāvat sthānā[t] sthānaṃ ‹na› cyāvayaty. āpadyate sthūlātyayām iti |. (10r5–6)
[a)] MS parāmṛṣat{{e}}y. [b)] MS parāmṛṣate.
VinSūVṛSv (Tib.):
’dir gźuṅ ni[a)] ji srid du nom par mi byed | mchog tu nom par mi byed pa de srid du ñes byas su ’gyur ro ‖ kun nas nom par byed |[b)] mchog tu nom par byed[c)] ciṅ ji srid du gnas nas gnas su sbed par mi byed pa de srid du ñes pa sbom por ’gyur ro źes gsuṅs pa yin no ‖ (D źu 71a7–b1, P ’u 83b3–4)

これに関して典籍がある：「乃至、触れず、掴まない。［その場合］ドゥシュクリターに堕す。触れ、掴む、乃至、［ある］場所から［別の］場所へ移動させない。［その場合］ストゥーラーティヤヤーに堕す」と。

ここに引用される典籍は、根本説一切有部律の *Vinayavibhaṅga* における以下の表現であると考えられる。パーラージカー第二条内に 15 箇所あるが、最初の箇所を挙げる。

Vinayavibhaṅga:
ji srid du nom par mi byed | ñug par mi byed pa de srid du ñes byas su ’gyur ro || nom par byed | ñug par byed ciṅ ji srid du gnas nas gnas su sbed par mi byed pa de srid du ñes pa sbom por ’gyur ro ||　(D ca 62a1–2, P che 55a1–2)[64]
乃至、触れず（nāmr̥śati）、掴まない（na parāmr̥śati）、その限りでドゥシュクリターになる。触れ（āmr̥śati）、掴む（parāmr̥śati）、乃至、［ある］場所から［別の］場所へ移動させない（na cyāvayati）、その限りでストゥーラーティヤヤー罪になる。

(11)　*Ad* VinSū sūtra 2.117: na kīlān mokṣo nāvaḥ sr̥ṣṭiḥ.
VinSūVr̥Sv MS 1.1:
grantho ‹’›tra. bhikṣuḥ ⁺kīlopanibaddhān[a)] nāvaṃ muñcaty. āpadyate duṣkr̥tām iti ||. (Xc 14/64 IVb3.4)[65]　[a)] MS kilopanivaddhatvān.
これに関して典籍がある：「比丘が杭に結び付けられた舟を解き放つ。［その場合］ドゥシュクリターに堕す」と。

ここに引用される典籍は、根本説一切有部律の *Vinayavibhaṅga* における以下の箇所であると考えられる。

Vinayavibhaṅga:
dge sloṅ gis rku sems kyis gru phur pa la btags pa bskyod par byed na ñes byas su ’gyur ro ||　(D ca 67a5, P che 59b3–4)[66]

[a)] D ni |.　[b)] D omits |.　[c)] P byed |.

[64]『根本説一切有部毘奈耶』巻第三
乃至未觸著來、得惡作罪。若觸未移處、得窣吐羅底也。（大正蔵 23, 638b11–12）

[65] VinSūVr̥Sv MS 2:
grantho ‹’›tra. bhikṣu‹ḥ› ⁺kīlopanibaddhāṃ[a)] nāvaṃ muñcaty. āpadyate ⁺duḥkr̥tām[b)] iti ||. (10r8)
[a)] MS kilopanibaddhaṃ.　[b)] MS duḥkr̥tam.
VinSūVr̥Sv (Tib.):
’dir gźuṅ ni | dge sloṅ gis rku sems kyis gru phur pa la btags pa skyod[a)] par byed na ñes byas su ’gyur ro źes gsuṅs pa yin no ||　(D źu 71b7, P ’u 84a3)　[a)] P skyed.

[66]『根本説一切有部毘奈耶』巻第三
若苾芻見船以纜繫之於橛、有心盗去、搖動之時、得惡作罪。（大正蔵 23, 639c15–16）

比丘が盗むという心でもって杭に結び付けられた舟を動かす（解き放つ）ならば、ドゥシュクリターになる。

ただし、根本説一切有部律の *Vinayavibhaṅga* にある「盗むという心でもって（rku sems kyis）」に対応する語句が、VinSūVṛSv MS 1.1, MS 2 には存在しない。一方、VinSūVṛSv (Tib.) はその語句を有している。

(12) *Ad* VinSū sūtra 2.118: hāro bhārasya tatkṛtya haraṇe.

VinSūVṛSv MS 1.1:

grantho ‹’›tra. yathāpi ○ tac celadhāvakasya ‹vastrāṇi dhāvato›[a] vastrāṇi vāyunā hriyante. bhikṣus tatpra{{ti}}yogī yāvan ⁺nāmṛśati[b] na parām‹ṛ›śaty. āpa**(IVb3.6)**dyate duṣkṛtāṃ. ⁺āmṛśati[c] parāmṛśati saṃharati bhārakaṃ badhnāti yāvat sthānāt sthānaṃ na cyāvayati. āp{{i}}attim āpadyate sthūlātyayāṃ. sthānāt sthānāntaraṃ cyāvayati ||. hṛtam vaktavyaṃ. mūlyaṃ gaṇayitavyaṃ yāvat sthūlātyayām iti ||. (Xc 14/64 IVb3.5–6)[67] [a] Cf. Pārājikā 2.(4). [b] MS nāmṛṣeti. [c] MS āmṛṣati.

これに関して典籍がある：「以下のように、布を洗う者が諸々の衣を洗っていると、その者の諸々の衣が風によって運び去られた。比丘がその［機］に応じて、乃至、触れず、掴まない。［その場合］ドゥシュクリターに堕す。触れ、掴み、集め、荷として結ぶ（まとめる）、乃至、［ある］場所から［別の］場所へ移動させない。［その場合］ストゥーラーティヤヤー罪に堕す[68]。［ある］場所から別の場所へ移動させる。［その場合］盗まれた／盗みと言われるべきである。価値が計算されるべきである。乃至（要件を満たすならばパーラージカーに、要件を満たさないならば）ストゥーラーティヤヤーに［堕す］」と。

---

[67] VinSūVṛSv MS 2:

grantho ‹’›tra. yathāpi tac ⁺coladhāvakasya[a] vastrāṇi ⁺dhāvato[b] vastrāṇi vāyunā hriyante. bhikṣus tatprayogī yāvan nāmṛś{y}ate na ⁺parāmṛśaty[c]. āpadyate duṣkṛtāṃ. [(d+]āmṛśati ⁺parāmṛśati[d] saṃharati bhārakaṃ badhnāti yāvat {ca} sthānāt sthānaṃ na cyāvayati. āpattim āpadyate sthūlātyayāṃ. sthānāt ⁺sthānāntaraṃ[e] cyāvayati |. ⁺hṛtam[f] vaktavyaṃ. mūlyaṃ yāvat sthūlātyayām iti ||. (10v1)

[a] MS coladhauvakasya. [b] MS dhārato. [c] MS parāmṛṣyaty. [d] MS āmṛṣati parāmṛṣati.

[e] sthanāntaraṃ. [f] MS kṛtam.

VinSūVṛSv (Tib.):

’dir gźuṅ ni | ’di ltar btso blag mkhan gyis gos rnams ’khru źiṅ gos dag btiṅ ba rluṅ gis khyer źiṅ dge sloṅ de la sbyor bas ji srid du nom par mi byed | ñug par mi byed pa de srid du ñes byas su ’gyur ro || nom par byed |[a] ñug par byed | gos dag sdud par byed | bam por sbrel bar byed ciṅ | ji srid du gnas nas gnas su sbed par mi byed pa de srid du ñes pa sbom por ’gyur ro || gnas nas gnas su sbed par byed na brkus par brjod par bya ste | rin thaṅ brtsi bar bya źiṅ de srid du sbom po’i ltuṅ ba źes bya ba’i bar du’o || (D źu 72a2–4, P ’u 84a6–8) [a] P omits |.

[68] āp{{i}}attim āpadyate sthūlātyayāṃ は、VinSūVṛSv MS 2 も同じであるが、定型表現であることを重視して āp{{i}}attim を削除するべきかもしれない。今は、写本にあるとおりにする。

ここに引用される典籍は、根本説一切有部律の *Vinayavibhaṅga* における以下の箇所であると考えられる。

Vinayavibhaṅga:
’di ltar btso blag mkhan gyi gos dag btiṅ ba rluṅ gis khyer źiṅ de dag dge sloṅ rnams kyi ’chag sa dag gam | dag ra dag gam | sgo khaṅ[a)] dag tu lhuṅ ba la dge sloṅ gis de la sbyor bas khri las ldaṅ bar byed | śam thabs gyon par byed | ’gro bar byed[b)] ciṅ ji srid du nom par mi byed |[c)] ñug par mi byed pa de srid du ñes byas su ’gyur ro || nom par byed | ñug par byed | gos dag sdud par byed | bam po sgre[d)] bar byed ciṅ ji srid du gnas nas gnas su sbed par [(e]mi byed[e)] pa [(f]de srid[f)] du ñes[g)] pa [(h]sbom por[h)] ’gyur ro[i)] || gnas nas gnas su sbed[j)] par byed[k)] na brkus par brjod par bya ste | rin[l)] thaṅ brtsi[m)] bar bya źiṅ [(n]dṅos po[n)] tshaṅ na pham par ’gyur la | [(n]dṅos po[n)] ma tshaṅ na ñes pa sbom por ’gyur ro || (D ca 63a6–b2, P che 56a4–7)[69]

a) P gaṅ. b) P byed ya gad ’jugs par byed | khre ’phad daṅ thag skas ’ma’ bar byed || dbyar thag ’dod bar byed || ’jig par byed. c) P ||. d) P sgri. e) P ma byad. f) P da srad. g) P ñas. h) P sbam par. i) P ra. j) P sbad. k) P byad. l) P ran. m) P brtsa. n) P dṅas pa.

以下のように、染物師（布を洗う者）の諸々の衣が敷き広げられて風によって運び去られた。それらが比丘たちの諸々の経行処や諸々の小舎や諸々の門屋に落下する場合、比丘がその［機］に応じて、座から立ち上がる、着衣する、行く、乃至、触れず、掴まないならば、その限りでドゥシュクリターになる。触れ、掴み、諸々の衣服を集め、荷として整える、乃至、［ある］場所から［別の］場所へ移動させない、その限りでストゥーラーティヤヤー罪に堕す。［ある］場所から［別の］場所へ移動させるならば、盗まれた／盗みと言われるべきである。価値が計算されるべきである。要件を満たすならばパーラージカーに、要件を満たさないならばストゥーラーティヤヤー罪になる。

(13) *Ad* VinSū sūtra 2.119: nikarasyoccitya.
VinSūVṛSv MS 1.1:
nikare granthaḥ. trayo vṛkṣāḥ, puṣpavṛkṣaḥ phalavṛkṣaḥ cchāyāvṛkṣaḥ. bhikṣu‹ḥ› puṣpāṇām arthāya mañcād uttiṣṭhati nivāsayati gacchati puṣpavṛkṣam adhirohati yāvan nā(Vb6.1)mṛ{{ṣa}}śati na parāmṛśaty. āpadyate duṣkṛtāṃ. āmṛśati +parāmṛśati[a)] puṣpāṇy uccin{{i}}oti utsaṅgaṃ c{{i}}a pūrayati yāvat sthānāntara‹ṃ› na cyāva‹ya›ty. āpadyate sthūlātyayām ity{{i}}ādi. (Xc 14/64 IVb3.7–Vb6.1)[70]

---

[69]『根本説一切有部毘奈耶』巻第三
若浣衣人屋上曬衣、被風吹去、墮在苾芻經行之處或落門傍。若苾芻起盗心、興方便、乃至未觸已來、得惡作罪。若觸著時、得窣吐羅底也。若擧離處、得罪同前*。（大正蔵 23, 638c15–18）
*『根本説一切有部毘奈耶』巻第三
若擧離處、是謂爲盗。隨時准價。若滿五磨灑、得波羅市迦。若不滿五磨灑、得窣吐羅底也。（大正蔵 23, 638b12–14）

[70] VinSūVṛSv MS 2:

[a] MS parāmṛṣati.

塊り[71]に関して典籍がある：「三つの樹がある：花のつく樹、実のなる樹、陰をもたらす樹である。比丘が花々のために座から立ち上がる、着衣する、行く、花のつく樹に登る、乃至、触れず、掴まない。［その場合］ドゥシュクリターに堕す。触れ、掴み、花々を摘み、前掛けに一杯にする、乃至、［別の］場所へ移動させない。［その場合］ストゥーラーティヤヤーに堕す」云々と。

この引用文の典拠は不明である。ただし、パーラージカー第二条 (15) 参照。

(14) *Ad* VinSū sūtra 2.121: nayane sā matir yāsmin yaś cādvāre.

VinSūVṛSv MS 1.1:

grantho ‹’›tra. bhikṣur vuḍ{ḍ}antaka[sya] **(Vb6.4)** paṇyasyārthe mañcād uttiṣṭhatītyādi ||. (Xc 14/64 Vb6.3–4, cf. Nakagawa 2000a, 1135)[72]

これに関して典籍がある：「比丘が沈んでいるもののために座から立ち上がる」云々と。

ここに引用される典籍は、根本説一切有部律の *Vinayavibhaṅga* における以下の箇所であると考えられる。

---

nikare granthaḥ. trayo vṛkṣā‹ḥ›, puṣpavṛkṣāḥ phalavṛkṣāḥ chāyāvṛkṣāḥ. bhikṣu‹ḥ› puṣpāṇām arthāya mañcād +uttiṣṭhati[a] nivāsayati gacchati puṣpavṛkṣam adhirohati yāvan nāmṛś{y}ati na +parāmṛśaty[b]. āpadyate duḥkritāṃ. +āmṛśati[c] +parāmṛśati[d] puṣpā**(10v3)**ṇy uccinoti +utsaṃgaṃ[e] pūrayati yāvat sthānāt sthānāntaraṃ na cyāva‹ya›ty. āpadyate sthūlātyayām ity{{i}}ādi. (10v2–3)

[a] MS uttiṣṭati. [b] MS parāmṛṣyaty. [c] MS āmṛśyate. [d] MS parāmṛṣyati. [e] MS atsaṃgaṃ.

VinSūVṛSv (Tib.):

phuṅ po ’di la gźuṅ ni | śiṅ rnams ni gsum yin te | me tog gi śiṅ daṅ | ’bras bu’i śiṅ daṅ | grib ma’i śiṅ źes bya ba ste | dge sloṅ ni me tog rnams kyi phyir khri las ldaṅ źiṅ gos gyon par byed de ’gro bar byed || me tog gi śiṅ la ’dzeg ste |[a] ji srid du nom par mi byed | ñug par mi byed pa de srid du ñes byas su ’gyur ro || nom par byed | ñug par byed | me tog rnams ’thog par byed | thu ba ’geṅs par byed ciṅ ji srid du gnas nas gnas gźan du ’pho bar mi byed pa de srid du ñes pa sbom por ’gyur ro ||[b] źes bya ba la sogs pa’o || (D źu 72a5–7, P ’u 84b2–5) [a] D omits |. [b] D omits ||.

[71] VinSūVṛSv MS 1.1:

uccitānāṃ samudāyo nikaraḥ || (Xc 14/64 Vb6.1, cf. VinSūVṛSv MS 2 10v3; VinSūVṛSv (Tib.) D źu 72a7–b1, P ’u 84b5)「摘まれた諸々のものの集合が、塊りである。」

[72] VinSūVṛSv MS 2:

grantho ‹’›tra. bhikṣu‹r› vuḍ{ḍ}antakasya paṇyasyārthe +mañcād[a] uttiṣṭhatītyādi || (10v5)

[a] MS man*[c]ād.

VinSūVṛSv (Tib.):

’dir gźuṅ ni | dge sloṅ gis zoṅ ([a]spyiṅs pa’i[a]) phyir khri las ldaṅ bar byed ces bya ba la sogs pa’o || (D źu 72b5, P ’u 85a3–5) [a] D spyiṅ ba’i.

Vinayavibhaṅga:
dge sloṅ gis zoṅ byiṅ ba'i phyir khri las ldaṅ bar byed | śam thabs gyon par byed | 'gro bar byed | gos 'chiṅ bar byed | chur 'jug par byed | gtiṅ du 'jug par byed | 'byuṅ bar byed ciṅ ji srid du nom par mi byed | ñug par mi byed pa de srid du ñes byas su 'gyur ro || nom par byed | ñug par byed ciṅ ji srid du gnas nas gnas su sbed par mi byed pa de srid du ñes pa sbom por 'gyur ro || gnas nas gnas su sbed par byed na brkus par brjod par bya ste | rin thaṅ brtsi bar bya źiṅ dṅos po tshaṅ na pham par 'gyur la | dṅos po ma tshaṅ na ñes pa sbom por 'gyur ro || (D ca 68a7–b3, P che 60b6–8)[73]
比丘が沈んだもののために座から立ち上がる、着衣する、行く、衣を結ぶ、水の中へ行く、深みへ行く、明らかになる（現われる）、乃至、触れず、掴まない、その限りでドゥシュクリターになる。触れ、掴み、乃至、［ある］場所から［別の］場所へ移動させない、その限りでストゥーラーティヤヤー罪になる。［ある］場所から［別の］場所へ移動させるならば、盗まれた／盗みと言われるべきであり、価値が計算されるべきである。要件を満たすならばパーラージカーに、要件を満たさないならばストゥーラーティヤヤー罪になる。

(15) *Ad* VinSū sūtra 2.127: nikṣiptavat prarohaḥ.
VinSūVṛSv MS 1.1:
grantho ‹'›tra. **(Vb7.1)** bhikṣuḥ puṣpavṛkṣam utpāṭya harati yāvan nāmṛśati. āpadyate duṣkṛtāṃ. āmṛśati yāvat* sthānāntaraṃ cyāvayati. hṛtaṃ vaktavyaṃ. puṣpavṛkṣasya mūlyaṃ gaṇayitavyam +ityādi[a)] ||. ke cit +tu[b)] puṣpavṛkṣam utpāṭya harati. puṣpavṛkṣasya mūlyaṃ gaṇayitavyam ity +etat[c)] pathant[i]. na śeṣaṃ ||. (Xc 14/64 Va6.7–Vb7.1)[74] a) MS itya{{rtha}}di. b) MS te. c) MS atat.
これに関して典籍がある:「比丘が花のつく樹を引き抜いた[75]のちに持ち去る、乃至、触れない。［その場合］ドゥシュクリターに堕す。触れる、乃至、別の場所へ移動させる。［その場合］盗まれた／盗みと言われるべきである。花のつく樹の価値が計算されるべきである」云々と。一方、ある者たちは「花

[73]『根本説一切有部毘奈耶』巻第三
若沈在泥中、後時將去、泥掩之時、此即成盗。得罪同前。（大正蔵 23, 639c22–23）
[74] VinSūVṛSv MS 2:
grantho ‹'›tra. bhikṣu‹ḥ› puṣpavṛkṣam utpāṭya harati yāvan nāmṛś{y}ati. āpadyate duṣkṛtāṃ |. āmṛś{y}a○ti yāvat sthānāntaraṃ cyāvayati. hṛtaṃ vaktavyaṃ. puṣpavrikṣasya mūlyaṃ gaṇayitavyam ityādi |. ke cit tu puṣpavṛkṣam utpāṭya harati. puṣpavṛkṣasya **(11r6)** mūlyaṃ gaṇayit{y}avyam ity {{ā}}et{{i}}at pathanti. na śeṣaṃ. (11r5–6)
VinSūVṛSv (Tib.):
'dir gźuṅ ni | dge sloṅ gis me tog gi śiṅ ljon pa phyuṅ ste | rku na ji srid du nom par mi byed pa'i bar du ni ñes byas su 'gyur ro || nom pa nas gnas daṅ spo ba'i bar gyis ni brkus pa źes bya ba ste | me tog gi śiṅ gi rin thaṅ brtsi bar bya'o źes bya ba gsuṅs pa yin no || kha cig ni me tog gi śiṅ phyuṅ ste | rku na me tog gi śiṅ gi rin thaṅ bgraṅ bar byed ces bya ba 'di tsam 'don pa yin te lhag ma ni ma yin no || (D źu 74a4–5, P 'u 86b4–6)
[75] BHSD s.v. *utpāṭa* 参照。

のつく樹を引き抜いたのちに持ち去る。［その場合］花のつく樹の価値が計算されるべきである」と、これを読み、［それ］以外のもの（語）はない。

ここに引用される典籍のうち後者の読みは、根本説一切有部律の *Vinaya-vibhaṅga* における以下の箇所であると考えられる。

Vinayavibhaṅga:
śiṅ ljon pa gsum po me tog gi śiṅ ljon pa daṅ | ’bras bu’i śiṅ ljon pa daṅ | bdug[a)] pa’i śiṅ ljon pa la yaṅ de bźin te | dge sloṅ gis me tog gi śiṅ ljon pa phyuṅ ste rku na me tog gi śiṅ ljon pa’i rin thaṅ brtsi bar bya źiṅ dṅos po tshaṅ na pham par ’gyur la | dṅos po ma tshaṅ na ñes pa sbom por ’gyur ro ||　(D ca 66a2–4, P che 58b3–4)[76]
[a)] P ’dug.
三つの樹、花のつく樹と実のなる樹と香りのする樹に関してもそのとおりである。比丘が花のつく樹を引き抜いて持ち去るならば、花のつく樹の価値が計算されるべきであり、要件を満たすならばパーラージカーに、要件を満たさないならばストゥーラーティヤヤー罪になる。

(16)　*Ad* VinSū sūtra 2.128: vivecanam āmuktasya.
VinSūVṛSv MS 1.1:
grantho ‹’›tra. te vividhair alaṃkārair alaṃkṛtā bhavanti. bhikṣus tatprayogī mañcād ut[t]i[ṣṭha](t)(i) **(Vb7.3)** yāvat* sthānāt sthānāntaraṃ cyāvayati. hṛtaṃ vaktavyam iti. (Xc 14/64 Vb7.2–3)[77]
これに関して典籍がある：「それらは種々の装飾品によって飾り立てられている。比丘がその［機］に応じて座から立ち上がる、乃至、［ある］場所から別の場所へ移動させる。［その場合］盗まれた／盗みと言われるべきである」と。

ここに引用される典籍は、根本説一切有部律の *Vinayavibhaṅga* における以下の箇所であると考えられる。

---

[76]『根本説一切有部毘奈耶』巻第三
若三種樹、謂華樹果樹奇妙樹、芯芻斬截盗花樹等、價滿不滿得罪同前。（大正蔵 23, 639b20–22）

[77] VinSūVṛSv MS 2:
grantho ‹’›tra. [+]te[a)] vividhair alaṃkārair alaṃkṛtā bhavanti. bhikṣus tatprayogī mañcād ut‹t›iṣṭhati yāvat* sthānāt sthānāntaraṃ cyāvayati. hṛtam vaktavyam iti. (11r7)　[a)] MS tair.
VinSūVṛSv (Tib.):
’dir gźuṅ ni | de dag rgyan sna tshogs dag gis brgyan par gyur pa dge sloṅ gis rgyan[a)] par gyur pa de’i sbyor bas khri las ldaṅ ba nas | nom ñug mi byed pa’i sbyor ba’i sbyor ba ji srid du nom ñug byed pa nas gnas nas gnas gźan du ma spos pa’i [(b]bar du[b)] byed na sbyor ba gnas nas spo ba’i tshe brkus par brjod par bya źes bya ba la sogs pa gsuṅs pa yin no ||　(D źu 74b1–2, P ’u 87a1–3)
[a)] D brgyan.　[b)] P bar.

Vinayavibhaṅga:
’di ltar mi rnams kyi khyim dag gam | chu’i gnas dag tu rdziṅ bu sna tshogs dag byas śiṅ rdziṅ bu de dag tu rtsed mo’i bya sna tshogs ’di lta ste | ṅaṅ pa dag daṅ | [a]kā ra ṇḍa[a)] ba ka dag daṅ | dur ba dag bźag par gyur la | de dag kyaṅ rgyan sna tshogs ’di lta ste | mgul gdub dag daṅ | gdu bu rgyan can dag daṅ | dpuṅ rgyan dag daṅ | do śal dag daṅ | se mo do dag daṅ | mu tig gi chun po dag gis brgyan pa la | dge sloṅ gis de la sbyor bas khri las ldaṅ bar byed | śam thabs gyon par byed | ’gro bar byed | gos ’chiṅ bar byed | chur ’jug par byed | gtiṅ du ’jug par byed | bya ’dzin par byed ciṅ ji srid du rgyan la nom par mi byed | ñug par mi byed pa de srid du ñes byas su ’gyur ro || nom par byed | ñug par byed ciṅ ji srid du gnas nas gnas su sbed par mi byed pa de srid du ñes pa sbom por ’gyur ro || gal te de ’di sñam du bya las brku bar bya’i mi las ma yin no[b)] sñam du sems na ñes byas su ’gyur ro || gnas nas gnas su sbed par byed[c)] na brkus par brjod par bya ste | rin thaṅ brtsi bar bya źiṅ dṅos po tshaṅ ña ñes pa sbom por ’gyur la | dṅos po ma tshaṅ na ñes byas su ’gyur ro || gal te ’di sñam du mi las brku bar bya’i bya la rgyan ga la yod sñam du sems na | de ji srid du gnas nas gnas su sbed par mi byed pa de srid du ñes pa sbom por ’gyur ro || gnas nas gnas su sbed par byed na brkus par brjod par bya ste | rin thaṅ brtsi bar bya źiṅ dṅos po tshaṅ na pham par ’gyur la | dṅos po ma tshaṅ na ñes pa sbom por ’gyur ro || (D ca 69a2–7, P che 61a7–b5)[78]

a) P ka ran dhā. b) P no ||. c) P mi byed.

以下のように、人々の家々や諸々の水場において種々の池を作り、その池に種々の遊興のための鳥、つまり諸々のガンやカモや茅草（？）を置く場合に、さらにまたそれらが種々の装飾品、つまり諸々の首飾りや腕飾りや肩飾りや頸飾りや首環や真珠の花環によって飾り立てられている場合に、比丘がその［機］に応じて座から立ち上がる、着衣する、行く、衣を結ぶ、水の中へ行く、深みへ行く、鳥を捕まえる、乃至、装飾品に触れず、掴まない、その限りでドゥシュクリターになる。触れ、掴み、乃至、［ある］場所から［別の］場所へ移動させない（na cyāvayati）、その限りでストゥーラーティヤヤー罪になる。もし彼が次のように「鳥から盗むことになるが、人からではない」と思うならば（Pārajikā 2.(9)）、ドゥシュクリターになる。［ある］場所から［別の］場所へ移動させるならば、盗まれた／盗みと言われるべきであり、価値が計算されるべきである。要件を満たすならばストゥーラーティヤヤー罪に、要件を満たさないならばドゥシュクリターになる。もし次のように「人から盗むことになるのであって、鳥に装飾品がどうしてあろうか？（cf. Pārajikā 2.(5)）」と思うならば、彼は、乃至、［ある］場所から［別の］場所へ移動さ

[78]『根本説一切有部毘奈耶』巻第三
若人舍中或在池内、爲戲樂故、養畜諸鳥。謂、鸚鵡・舍利・俱抳羅鳥・命命鳥等。便以種種諸瓔珞具而莊飾之。苾芻見已、起盜心、興方便、遂捉彼鳥。乃至未觸莊嚴具來、得惡作罪。若觸彼物時、未離本處、作鳥物想、亦得惡作罪。若擧離處、是名爲盜。應准其價。若滿五者、得窣吐羅底也。若不滿者、得惡作罪。若於此物作人物想非鳥物想、雖觸著、未離本處、得窣吐羅底也。若擧離處、滿五者、得根本罪。不滿五者、得麁罪。（大正蔵 23, 639a12–22）

せないならば、その限りでストゥーラーティヤヤー罪になる。［ある］場所から［別の］場所へ移動させるならば、盗まれた／盗みと言われるべきであり、価値が計算されるべきである。要件を満たすならばパーラージカーになり、要件を満たさないならばストゥーラーティヤヤー罪になる。

(17) *Ad* VinSū sūtra 2.130: utpāṭanaṃ pakṣiṇas tathā cet.
VinSūVṛSv MS 1.1:
bhikṣuḥ pakṣiṇam utpāṭya harati. pakṣiṇo mūlyaṃ gaṇayitavyam ity atra granthaḥ ||. (Xc 14/64 Va7.2)[79]
「比丘が鳥を引き上げたのちに[80]奪う。［その場合］鳥の価値が計算されるべきである」と、これに関して典籍がある。

ここに引用される典籍は、根本説一切有部律の *Vinayavibhaṅga* における以下の箇所であると考えられる。

Vinayavibhaṅga:
’di ltar dge sloṅ gis bya spar te rku bar byed na bya’i rin thaṅ brtsi bar bya źiṅ dṅos po tshaṅ na pham par ’gyur la | dṅos po ma tshaṅ na ñes pa sbom por ’gyur ro || de ltar spar bas so || (D ca 88a6, P che 79a6)[81]
以下のように、比丘が鳥を引き上げて奪うならば、鳥の価値が計算されるべきであり、要件を満たすならばパーラージカーに、要件を満たさないならばストゥーラーティヤヤー罪になる。

(18) *Ad* VinSū sūtra 2.132: anābhasitvaṃ nibandhanodyūthanābhyāṃ.
VinSūVṛSv MS 2:
cakṣuṣa ābhās{{[ā]}anā gacchati. hṛtam vaktavyam ity atra granthaḥ ||. (11v7)[82]

---

[79] VinSūVṛSv MS 2:
bhikṣu‹ḥ› pakṣiṇam utpāṭya harati. pakṣiṇo (11v5) mūlyaṃ gaṇayitavyam ity atra granthaḥ |. (11v4–5)
VinSūVṛSv (Tib.):
’dir gźuṅ ni | dge sloṅ bya spar[a)] te rku bar byed na bya’i rin thaṅ brtsi bar bya’o źes gsuṅs pa yin no || (D źu 75b1–2, P ’u 88a4) [a)] D par.

[80] *Vinayasūtravṛttyabhidhānasvavyākhyāna* は、続けて utpāṭya の説明を行なう［Xc 14/64 Va7.2–3, 11v5; D źu 75b2–3, P ’u 88a4–5］。

[81]『根本説一切有部毘奈耶』巻第四
鳥在地上、擎舉偸去。滿不滿如上説。（大正蔵 23, 646c6–7）

[82] VinSūVṛSv MS 1（Xc 14/64 Va7.3）はスートラ 131 に対する注釈の途中からスートラ 134 に対する注釈の途中に飛んでいるようであり、スートラ 132 における当該箇所を見出すことができない。
VinSūVṛSv (Tib.):
’dir gźuṅ ni | mig lam du snaṅ bar ma gyur na brkus źes bya ba’o || źes gsuṅs pa yin no || (D źu 76a1–2, P ’u 88b5)
ここで注意すべきことは、cakṣuṣa ābhāsanā gacchati に対応するチベット訳語が mig lam du

「目に明らかである[83]。［その場合］盗まれた／盗みと言われるべきである」と、これに関して典籍がある。

ここに引用される典籍は、根本説一切有部律の *Vinayavibhaṅga* における以下の箇所であると考えられる。

Vinayavibhaṅga:
rkaṅ bźi pa źes bya ba ni glaṅ po che daṅ | rta daṅ | rṅa mo daṅ | ba laṅ daṅ | boṅ bu daṅ | ra daṅ | ri dags daṅ | ma he daṅ | phag dag go |[a] de dag ni rnam pa gñis kyis rku ste | khyu nas dgar ba daṅ | brtod pas so || ji ltar khyu nas dgar bas śe[b] na | dge sloṅ gis glaṅ po che khyu nas dgar bas rku bar byed na | ji srid mig sṅar snaṅ ba de srid du ñes pa sbom por ’gyur la | mig sṅar mi snaṅ bar gyur na brkus par brjod par bya ste | rin thaṅ brtsi bar bya źiṅ dṅos po tshaṅ na pham par ’gyur la | dṅos po ma tshaṅ na ñes pa sbom por ’gyur te | de ltar khyu nas dgar bas so || ji ltar brtod pas śe na | dge sloṅ gis glaṅ po che brtod pa sna tshogs śiṅ ljon pa ’am | rtsig pa ’am | gźan dag la brtod par byed na | ji srid mig sṅar snaṅ ba de srid du ñes pa sbom por ’gyur ro || mig sṅar mi snaṅ bar gyur na[c] brkus par brjod par bya ste | rin thaṅ brtsi bar bya źiṅ dṅos po tshaṅ na pham par ’gyur la | dṅos po ma tshaṅ na ñes pa sbom por ’gyur te | de ltar brtod pas so || (D ca 88b2–5, P che 79b1–5)[84]

[a] D ||. [b] P śes. [c] P na |.

四足［動物］とは、象、馬、駱駝、牛、驢馬、山羊、野獣（草食動物）、水牛、猪である。それらは二通りで盗まれる。群れから分離すること［によって］と結びつけることによってである。群れから分離することによってとは、どのようにであるのか？比丘が象を群れから分離することによって盗むならば、目に明らかでない限りでストゥーラーティヤヤー罪に堕す。目に明らかであるならば[85]、盗まれた／盗みと言われるべきであり、価値が計算されるべきである。要件を満たすならばパーラージカーになり、要件を満たさないならばストゥーラーティヤヤー罪になる。群れから分離することによってとは、そのようにである。結びつけることによってとは、どのようにであるのか？比丘が象を種々の結びつけるもの、木か壁か［その］他の諸々のものに結びつけるならば、目に明らかでない限りでストゥーラーティヤヤー罪に堕す。目に明らかであるならば、盗まれた／盗みと言われるべきであり、価値が計算されるべきである。要件を満たすならばパーラージカーになり、要件

snaṅ bar ma gyur na と否定辞を伴っていることである。

[83] BHSD s.v. *gacchati* 参照。

[84]『根本説一切有部毘奈耶』巻第四
云何四足。謂象馬駝驢牛羊麞鹿猪兎等。若欲盗時、有二方便。謂從群處或於繫處。苾芻於象群中盗象去時齊眼見處來、得窣吐羅底也。至不見處、得根本罪。云何繫處。若象繫柱若樹若牆柵内苾芻解放、得罪如上盗。

[85] 先の注 82 と次のパーラージカー第二条（19）における cakṣuṣa ⁺ābhāsanā gacchanti = mig sṅar snaṅ bar ma gyur na の対応を考慮して訳した。

を満たさないならばストゥーラーティヤヤー罪になる。結びつけることによってとは、そのようにである。

なお、次のパーラージカー第二条（19）も参照。

(19) *Ad* VinSū sūtra 2.134: pūrvam anugacchad upaharator hāninivṛtyaprakrama-praveśo kośair na tadāttasya.
VinSūVṛSv MS 1.1:
grantho ‹’›tra. yathāpi tad (a+ācāryopā○dhyāyā a[dhv]apratipannāa) bhavaṃti. teṣāṃ sārddhaṃvihāryantevāsikānāṃ haste cīvarakāṇi bhavanti. teṣāṃ tatra steyacittaṃ pratyupasthitaṃ bhavati ||. ○ te padaparihāṇikayā gacchanti. pade-pade āpadyante duṣkṛtāṃ. yāva‹c› cakṣuṣa +ābhāsanāb) ‹na› gacchanti. āpadyante s(thū)(Va7.6)lātya-yāṃ. cakṣuṣa +ābhāsanāc) gacchanti. hṛtaṃ vaktavyam iti. (Xc 14/64 Va7.5–6)[86]
a) MS ācāryopā○m a[dhv]a°. b) MS ābhāsamā. c) MS ābhāṣaṃnā.
これに関して、典籍がある：「以下のように、和尚と阿闍梨が道中にあった（移動中であった）。彼らの共住弟子と内弟子たちの手に諸衣があるようになった（渡された）。彼ら（共住弟子と内弟子たち）にそれら（諸衣）に対して盗む心が整った。彼らは歩み［の速度］を減じて[87]進む。一歩ごとにドゥシュクリターに堕す。乃至、目に明らかでない[88]。［その場合］ストゥーラーティヤヤー罪に堕す。目に明らかである。［その場合］盗まれた／盗みと言われるべきである」と。

ここに引用される典籍は、根本説一切有部律の *Vinayavibhaṅga* における以下の箇所であると考えられる。

---

[86] VinSūVṛSv MS 2（12r2）はスートラ 134 に対する注釈の途中からスートラ 139 前半部分に対する注釈の途中に飛んでいて、スートラ 134 に関する当該箇所を見出すことができない。
VinSūVṛSv (Tib.):
’dir gźuṅ ni | ji ltar yaṅ mkhan po daṅ slob dpon dag lam du źugs par gyur pa de dag gis lhan cig gnas pa daṅ ñe gnas dag gia) lag tu chos gos dag gtad pa na de la de dag rku sems ñe bar gnas par gyur ciṅ de dag gom pa bsri bas ’gro źiṅ dal bus ’gro na gom pa re re la ñes byas su ’gyur ro || ji srid du mig sṅar snaṅ bar gyur pa de srid du ñes pa sbom por ’gyur ro || mig sṅar snaṅ bar ma gyur na brkus par brjod par bya ste rin thaṅ brtsi bar bya’o || (D źu 76b5–7, P ’u 89b3–5) a) P gis.
Vinayasūtravṛttyabhidhānasvavyākhyāna は、引き続いて、共住弟子と内弟子が和尚と阿闍梨の諸衣を奪う別のケースを記述する［Xc 14/64 Va7.5–6; D źu 76b7–77a3, P ’u 89b5–90a2］。その記述は、*Vinayavibhaṅga*［D ca 71a7–b4, P che 63b3–7; 大正蔵 23, 640c14–19］のダイジェスト版ではあるが、直接の引用とは見なされえないので、本稿では取り扱わない。

[87] BHSD s.v. *-parihāṇikā*.

[88] Cf. BHSD s.v. *gacchati*.

Vinayavibhaṅga:
’di ltar mkhan po daṅ |[a] slob dpon lam gyi bgrod par źugs pa de dag gis lhan cig gnas pa daṅ | ñe gnas dag gi lag tu chos gos dag gtad pa na | de la de dag rku sems ñe bar gnas par gyur ciṅ de dag gom pa sri bas ’gro źiṅ spyaṅ ’breṅ du ’gro na [b]gom pa re re la ñes byas su ’gyur ro ||[b] ji srid du mig sṅar snaṅ bar gyur pa de srid du ñes pa sbom por ’gyur ro || mig sṅar snaṅ bar ma gyur na brkus par brjod par bya ste | rin thaṅ brtsi bar bya źiṅ dṅos po tshaṅ na pham par ’gyur la | dṅos po ma tshaṅ na ñes pa sbom por ’gyur ro || (D ca 71a4–6, P che 63a8–b2)[89]
[a] D omits |. [b] P omits this part.
以下のように、道を歩むことへ入っていた彼ら和尚と阿闍梨が、［彼らの］共住弟子と内弟子たちの手に諸衣を渡した。彼［ら］（共住弟子と内弟子たち）にそれらを盗む心が整った。彼らは歩み［の速度］を減じて進み、狼［のように］（？）あとに付いて行くならば、一歩ごとにドゥシュクリターに堕す。乃至、目に明らかでない限り、ストゥーラーティヤヤー罪に堕す。目に明らかであるならば、盗まれた／盗みと言われるべきであり、価値が計算されるべきである。要件を満たすならばパーラージカーになり、要件を満たさないならばストゥーラーティヤヤー罪になる。

ただし、上記の引用文において *Vinayavibhaṅga* における「狼［のように］（？）あとに付いて行く（spyaṅ ’breṅ du ’gro）」に対応する語は見出されない。

(20) *Ad* VinSū sūtra 2.165: arūḍhis tanmater adṛṣṭer.
VinSūVṛSv MS 1.1:
grantho ‹’›tra. svacakṣurharttāni karttavyāni. na kurvvanti, sātisārā bhava○ntīti ||. (Xc 14/64 Va4.6)[90]
これに関して典籍がある：「自らの視覚を奪う諸々のもの／ことが為されるべきである。［彼らが］為さない。［その場合］咎を有する者たちになる」と。

この引用文の典拠は不明である。

---

[89]『根本説一切有部毘奈耶』巻第三
時有弟子、與其二師隨路行去。師有衣物、持付弟子。于時弟子有盗心、故徐行不進。乃至眼見處來得窣吐羅底也。至不見處、若滿五者得根本罪、若不滿者得窣吐羅底也。（大正蔵 23, 640c10–14）
[90] VinSūVṛSv MS 2:
grantho ‹’›tra. +svacakṣurhartāni[a] kartavyāni. na kurvanti, sātisārā ○ bhavantīti ||. (13r5)
[a] MS svacakṣu«ḥ»hantāni.
VinSūVṛSv (Tib.):
’dir gźuṅ ni raṅ gi[a] mig gis blta bar bya’o || ma bltas na ’gal tshabs can du ’gyur ro źes gsuṅs pa yin no || (D źu 81a1–2, P ’u 94a8) [a] P gis.

まとめ

以上、本稿ではパーラージカー第一条の Pṛcchā における 5 箇所の引用文と Vinītakāni における 7 箇所の引用文、およびパーラージカー第二条の Vibhaṅgaḥ における 20 箇所の引用文[91]を検討した。

Guṇaprabha 著 *Vinayasūtravṛttyabhidhānasvavyākhyāna* が引用するテキストは基本的には現在利用することができる根本説一切有部律に合致するが、根本説一切有部律に今のところ対応を見出せないものも僅かながら存在する。*Vinayasūtravṛttyabhidhānasvavyākhyāna* における引用文と根本説一切有部律との関係[92]については、*Vinayasūtravṛttyabhidhānasvavyākhyāna* のサンスクリット語写本に引用されるテキストすべてを収集したのちに考察する予定である。

略号

大正蔵	高楠順次郎・渡辺海旭（編）『大正新脩大藏經』100 巻．東京：大正一切経刊行会, 1924–1932.
BHSD	Franklin Edgerton. *Buddhist Hybrid Sanskrit Grammar and Dictionary*. Volume II: Dictionary. New Haven: Yale University Press, 1953.
BHSG	Franklin Edgerton. *Buddhist Hybrid Sanskrit Grammar and Dictionary*. Volume I: Grammar. New Haven: Yale University Press, 1953.
D	sDe dge 版
P	Peking 版（『影印 北京版 西藏大藏經 —大谷大学図書館藏—』)[93]
PrMoSū (Mū)	Anukul Chandra Banerjee. *Two Buddhist Vinaya Texts in Sanskrit: Prātimokṣa Sūtra and Bhikṣukarmavākya*. Calcutta: The World Press, 1977.
SWTF	*Sanskrit-Wörterbuch der buddhistischen Texte aus den Turfan-Funden*. Faszikel 1–29. Begonnen von Ernst Waldschmidt, ed. H. Bechert, K. Röhrborn, J.-U. Hartmann. Göttingen: Vandenhoeck & Ruprecht, 1973–2018.

[91] *Vinayasūtravṛttyabhidhānasvavyākhyāna* が VinSū sūtra 2.103 に対して注釈する際に、*Upālipariprcchā* からと明示して引用する箇所がある［中川 1994, 936–937; Nakagawa 1998, 172］が、その引用はパーラージカー第二条 Pṛcchāgatam を取り扱うときに検討する予定である。

[92] 先行研究によると、“so-called canonical tradition” である根本説一切有部律と “commentarial tradition” である *Vinayasūtravṛttyabhidhānasvavyākhyāna* という区別があることが指摘されている［Hu-von Hinüber 1997, 344］。説得力のある論考であるが、本研究は引用されたテキストに関するものであるので、まずは引用テキストの収集に努めたい。

[93] Peking 版 bKa’ ’gyur の開版に関する最新の研究として、Mimaki 2021 がある。

VinSū	*The Digital Data of Preliminary Transliteration of the Vinaya-sūtra*. Ed. Study Group of Sanskrit Manuscripts in Tibetan dBu med Script. Tokyo: Taishō University, 2001 (https://www.tais.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2015/07/vinayasutra_trlt.pdf).
VinSū MS	*The Facsimile Edition of a Collection of Sanskrit Palm-leaf Manuscripts in Tibetan dBu med Script*. Ed. Study Group of Sanskrit Manuscripts in Tibetan *dBu med* Script. Tokyo: Institute for Comprehensive Studies of Buddhism, Taishō University, 2001.
VinSūVr̥Sv MS 1.1	ゲッティンゲン図書館所蔵 Xc 14/64
VinSūVr̥Sv MS 2	*The Facsimile Edition of a Collection of Sanskrit Palm-leaf Manuscripts in Tibetan dBu med Script*. Ed. Study Group of Sanskrit Manuscripts in Tibetan *dBu med* Script. Tokyo: Institute for Comprehensive Studies of Buddhism, Taishō University, 2001.
VinSūVr̥Sv (Tib.)	*'Dul ba'i mdo'i 'grel pa mṅon par brjod pa raṅ gi rnam par bśad pa*. bsTan 'gyur, 'Dul ba/'Dul ba'i 'grel pa; D 4119: źu 1b1–zu 274a7, P 5621: 'u 1b1–yu 342a8.

参考文献

生野昌範 2021a「*Vinayasūtravr̥ttyabhidhānasvavyākhyāna* の古くて新しいサンスクリット語写本」『国際仏教学大学院大学研究紀要』第 25 号: 63–92.

——— 2021b「*Vinayasūtravr̥ttyabhidhānasvavyākhyāna* の利用価値」『印度學佛教學研究』第 70 巻第 1 号: 468–463.

中川正法 1987「Vinayasūtra における波羅夷法婬戒（II)」『印度學佛教學研究』第 36 巻第 1 号: 402–399.

——— 1993「Vinayasūtra における波羅夷法盗戒（I)」『印度學佛教學研究』第 41 巻第 2 号: 1026–1022.

——— 1994「Vinayasūtra における波羅夷法盗戒（II)」『印度學佛教學研究』第 42 巻第 2 号: 941–936.

李慈郎 2018「偸蘭遮（thullaccaya）について」『印度學佛教學研究』第 66 巻第 2 号: 912–907.

Bandurski, Frank. 1994. "Übersicht über die Göttinger Sammlungen der von Rāhula Sāṅkr̥tyāyana in Tibet aufgefundenen buddhistischen Sanskrit-Texte (Funde buddhistischer Sanskrit-Handschriften, III)." In *Untersuchungen zur buddhistischen Literatur*: 9–126. Sanskrit-Wörterbuch der buddhistischen Texte aus den Turfan-Funden, Beiheft 5. Göttingen: Vandenhoeck & Ruprecht.

Clarke, Shayne. 2015. "Vinayas." In *Brill's Encyclopedia of Buddhism*, vol. I: Literature and Languages, ed. J. A. Silk: 60–87. Handbook of Oriental Studies, Section Two: India, 29.1. Leiden/Boston: Brill.

———. 2016. “The *’Dul bar byed pa* (*Vinītaka*) Case-Law Section of the Mūlasarvāstivādin *Uttaragrantha*: Sources for Guṇaprabha’s *Vinayasūtra* and Indian Buddhist Attitudes towards Sex and Sexuality.” *Journal of the International College for Postgraduate Buddhist Studies* 20: 49–196.

Hu-von Hinüber, Haiyan. 1997. “The 17 Titles of the *Vinayavastu* in the *Mahāvyutpatti* — Contributions to Indo-Tibetan Lexicography II —.” In *Bauddhavidyāsudhākaraḥ: Studies in Honour of Heinz Bechert on Occasion of His 65th Birthday*, ed. P. Kieffer-Pülz & J.-U. Hartmann: 339–345. Indica et Tibetica, 30. Swisttal-Odendorf: Indica et Tibetica Verlag.

Mimaki, Katsumi. 2021. “A Note on the Stages of the Peking bKa’ ’gyur Edition.” In *Gateways to Tibetan Studies: A Collection of Essays in Honour of David P. Jackson on the Occasion of His 70th Birthday*, ed. V. Caumanns, J. Heimbel, K. Kano & A. Schiller: 685–699. Indian and Tibetan Studies 12.1–2. Hamburg: Department of Indian and Tibetan Studies, Universität Hamburg.

Nakagawa, Masanori. 1991. “Vinayasūtravṛtti of Guṇaprabha — Pārājikam (2).” In *Essays in Honor of Dr. Shoren Ihara on His Seventieth Birthday*, ed. Committee for the Commemoration of Doctor S. Ihara’s Seventieth Birthday: 251–274. Fukuoka: Kyushu University.

———. 1996. “The Text of the Adattādāna-pārājikam in the Vinayasūtravṛtti.” *Journal of Chikushi Jogakuen Junior College* 31: 19–25.

———. 1998. “On Pārājikam in the Vinayasūtravṛtti.” *Journal of Chikushi Jogakuen Junior College* 33: 169–177.

———. 2000a. “On the Adattādāna-pārājikam in the Vinayasūtravṛtti — Transcription Text on the Sūtras no. 120～123 —.” *Journal of Indian and Buddhist Studies (Indogaku bukkyōgaku kenkyū)* 48.2: 1135–1133.

———. 2000b. “The Text of the Adattādāna-pārājikam in the Vinayasūtravṛtti (2).” *Indo no bunka to ronri*, ed. A. Akamatsu: 173–179. Fukuoka: Kyushu Daigaku Shuppan Kai.

Shōno, Masanori. 2018. “Hierarchy of Buddhist Monks.” In *Saddharmāmṛtam: Festschrift für Jens-Uwe Hartmann zum 65. Geburtstag*, ed. J. Schneider, G. Melzer & O. von Criegern: 415–425. Wien: Arbeitskreis für Tibetische und Buddhistische Studien Universität Wien.

———. 2019. “How to Become a Buddhist Monk: A Re-edition of One of the Gilgit *Karmavācanā* Texts.” *Bulletin of the International Institute for Buddhist Studies* 2: 57–106.

Yonezawa, Yoshiyasu. 2020. “The Sanskrit Manuscript of the *Vinayasūtravṛtti* in *dBu med* Script.” *Journal of Naritasan Institute for Buddhist Studies* 43: 65–84.

———. 2022. “The First *Pārājika* and the Second *Saṃghāvaśeṣa* of the *Vinayasūtravṛtti* in *dBu med* Script.” *Journal of Naritasan Institute for Buddhist Studies* 45: 61–92.

———. Forthcoming. “The Second *Pārājika* of the *Vinayasūtravṛtti* (1).” *Journal of Naritasan Institute for Buddhist Studies* 46.

（令和 4 年度科学研究費基盤研究 (C) 22K00061 による研究成果の一部である）

Summary

Quotations from Sanskrit Manuscripts of the *Vinayasūtravṛttyabhidhānasvavyākhyāna* (1)

Masanori Shōno

Although the *Mūlasarvāstivāda-vinaya* is only partly extant in Sanskrit, it is known that Guṇaprabha's *Vinayasūtravṛttyabhidhānasvavyākhyāna* quotes from the *Mūlasarvāstivāda-vinaya* many times. Hence, parts of the Sanskrit texts of the *Mūlasarvāstivāda-vinaya* can be recovered by utilizing Guṇaprabha's *Vinayasūtravṛttyabhidhānasvavyākhyāna*. However, to date the task of editing the Sanskrit text of the *Vinayasūtravṛttyabhidhānasvavyākhyāna* has only been halfway finished.

This paper collects textual passages quoted in Sanskrit manuscripts of the *Vinayasūtravṛttyabhidhānasvavyākhyāna* and analyzes the text by comparing it with related passages from the *Mūlasarvāstivāda-vinaya*, and under certain circumstances also the *Shisong-lü* and *Sapoduo-bu pini modeleqie*.